



Cisco Unified Solutions コマンドラインインターフェイス リファレンス ガイド リリース 8.0(2)

Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Solutions
Release 8.0(2)

OL-21318-01-J

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意 (www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このドキュメントでは、Cisco Unified Operating System で使用できる Command Line Interface (CLI; コマンドラインインターフェイス) のコマンドについて説明します。

目次

このドキュメントは、以下のセクションから構成されています。

- 「CLI セッションの開始」 (P.2)
- 「CLI の基礎」 (P.3)
- 「Delete コマンド」 (P.7)
- 「File コマンド」 (P.10)
- 「Run コマンド」 (P.20)
- 「Set コマンド」 (P.23)
- 「Show コマンド」 (P.48)
- 「Unset コマンド」 (P.103)
- 「Utils コマンド」 (P.105)
- 「関連資料」 (P.145)
- 「マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、およびセキュリティ ガイドライン」 (P.146)

CLI セッションの開始

Cisco Unified Operating System CLI には、リモートから、またはローカルでアクセスすることができます。

- Cisco Unified Operating System の管理に使用するワークステーションなど、Web クライアントのワークステーションからは、SSH を使用してセキュアに Cisco Unified Operating System に接続できます。
- インストールに使用したモニタとキーボードを使用して、またはシリアル ポートに接続されているターミナル サーバを使用して、Cisco Unified Operating System の CLI に直接アクセスすることができます。IP アドレスに問題がある場合は、この方法をご使用ください。

始める前に

インストール時に定義した以下の情報を手元にご用意ください。

- 主に使用する IP アドレスとホスト名
- 管理者 ID
- パスワード

この情報は、Cisco IPT Platform にログインする際に必要になります。

CLI セッションを開始するには、以下の手順を実行します。

ステップ 1 アクセス方法に応じて、以下のうち 1 つを実行します。

- リモート システムの場合は、SSH を使用して Cisco IPT Platform にセキュアに接続します。SSH クライアントで、次のように入力します。

```
ssh adminname@hostname
```

ここで、**adminname** は管理者 ID、**hostname** はインストール時に定義したホスト名です。

たとえば、**ssh admin@ipt-1** と入力します。

- 直接接続の場合は、次のプロンプトが自動的に表示されます。

```
ipt-1 login:
```

ここで、**ipt-1** はシステムのホスト名を表します。

管理者 ID を入力してください。

どちらの場合も、パスワードの入力を求められます。

ステップ 2

パスワードを入力します。

CLI プロンプトが表示されます。プロンプトは、次のように管理者 ID で表示されます。

```
admin:
```



(注) VMware 上でシステムが稼動している場合は、CLI にログインするたびに、VM の設定が表示されません。

CLI の基礎

次のセクションには、コマンドライン インターフェイスを使用するための基本的なヒントが示されています。

- 「コマンドのオートコンプリート」(P.3)
- 「ヘルプの利用方法」(P.3)
- 「Ctrl+C キー シーケンスによるコマンドの終了」(P.5)
- 「CLI セッションの終了」(P.5)

コマンドのオートコンプリート

コマンドを補完するには、次のように **Tab** キーを使用します。

- コマンドの先頭部分を入力し、**Tab** キーを押してコマンドを完成させます。たとえば、**se** と入力してから **Tab** キーを押すと、**set** になります。
- コマンド名全体を入力してから **Tab** キーを押すと、使用できるすべてのコマンドまたはサブコマンドが表示されます。たとえば、**set** と入力してから **Tab** キーを押すと、**set** のすべてのサブコマンドが表示されます。* は、サブコマンドが存在するコマンドを表します。
- コマンドが出現したら、そのまま **Tab** キーを押し続けます。現在のコマンドラインが繰り返されます。これは、それ以上拡張できないことを示しています。

ヘルプの利用方法

すべてのコマンドで、次の 2 種類のヘルプを利用できます。

- コマンドの定義と、その使用例を含む詳細なヘルプ
- コマンドの構文だけを含む短いクエリ

手順

詳細ヘルプを表示するには、CLI プロンプトで、次のように入力します。

help command

ここで、*command* はコマンド名、またはコマンドとパラメータです。例 1 を参照してください。



(注)

オプションのパラメータとして特定のコマンドを指定せずに **help** コマンドを入力すると、CLI システムに関する情報が表示されます。

コマンドの構文だけを確認するには、CLI プロンプトで次のように入力します。

command?

ここで、*command* はコマンド名、またはコマンドとパラメータを表します。例 2 を参照してください。



(注)

? を **set** などのメニュー コマンドの後ろに入力すると、Tab キーと同様に機能して、使用できるコマンドのリストが表示されます。

例 1 詳細ヘルプの例

```
admin:help file list activelog

activelog help:
This will list active logging files

options are:
page      - pause output
detail    - show detailed listing
reverse   - reverse sort order
date      - sort by date
size      - sort by size

file-spec can contain '*' as wildcards

Example:
admin:file list activelog platform detail
02 Dec,2004 12:00:59    <dir>    drf
02 Dec,2004 12:00:59    <dir>    log
16 Nov,2004 21:45:43      8,557   enGui.log
27 Oct,2004 11:54:33     47,916  startup.log
dir count = 2, file count = 2
```

例 2 クエリの例

```
admin:file list activelog?
Syntax:
file list activelog file-spec [options]
file-spec  mandatory   file to view
options    optional     page|detail|reverse|[date|size]
```

Ctrl+C キー シーケンスによるコマンドの終了

ほとんどの対話型コマンドは、次の例に示すように、**Ctrl+C** キー シーケンスを入力することによって停止できます。

例 3 Ctrl+C によるコマンドの終了

```
admin:utils system upgrade initiate

Warning: Do not close this window without first exiting the upgrade command.

Source:

 1) Remote Filesystem
 2) DVD/CD
 q) quit

Please select an option (1 - 2 or "q" ):
Exiting upgrade command. Please wait...

Control-C pressed

admin:
```



(注) **utils system switch-version** コマンドを実行し、**Yes** を入力して処理を開始した場合、**Ctrl+C** を押すとコマンドは終了しますが、**switch-version** 処理は停止しません。

CLI セッションの終了

CLI プロンプトで、**quit** と入力します。リモートからログインしている場合は、ログオフされ、ssh セッションが切断されます。ローカルでログインしている場合は、ログオフされ、ログインプロンプトに戻ります。

以下のセクションでは、Cisco Unified Operating System で使用できる CLI コマンドのリストと説明を示します。

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは 太字 で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、 <i>イタリック体</i> で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。

表記法	説明
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
	この矢印は、例の中の重要な行やテキストを強調するためのものです。
^	^ 記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイントアドバイスは、次のように表しています。



ワンポイントアドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

役に立つヒントを含んでいるという意味です。

注意は、次のように表しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。



警告

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。

Delete コマンド

このセクションでは、以下のコマンドについて説明します。

- 「[delete account](#)」 (P.7)
- 「[delete cuc futuredelivery \(Cisco Unity Connection のみ\)](#)」 (P.7)
- 「[delete cuc locale \(Cisco Unity Connection のみ\)](#)」 (P.8)
- 「[delete dns](#)」 (P.8)
- 「[delete ipsec policy_group](#)」 (P.9)
- 「[delete ipsec policy_name](#)」 (P.9)
- 「[delete process](#)」 (P.9)
- 「[delete smtp](#)」 (P.10)

delete account

このコマンドを使用すると、管理者のアカウントを削除できます。

コマンド構文

```
delete account account-name
```

パラメータ

- *account-name* は、管理者アカウントの名前を表します。

要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の使用 : 不可

delete cuc futuredelivery (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、将来配信するようにマークされているすべてのメッセージを削除します。

コマンド構文

```
delete cuc futuredelivery
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
delete cuc futuredelivery
```

```
Deleting File : UmssMtaFutureDelivery/UnityMbxDb1/5C56C086-E64B-11DC-9BAF-41FC55D89593.eml
Deleting File : UmssMtaFutureDelivery/UnityMbxDb1/6D7DD796-E64B-11DC-A0E6-D1FD55D89593.eml
Files : Found = 2, Deleted = 2
```

Note: Files that are in use cannot be deleted

delete cuc locale (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、指定されたロケールと、関連するすべてのファイルおよび設定を Connection から削除します。

コマンド構文

```
delete cuc locale locale-id
```

パラメータ

- locale-id* は、削除するロケールの ID を表します。
インストールされているロケールおよびその ID のリストを表示するには、[show cuc locales \(Cisco Unity Connection のみ\)](#) コマンドを実行します。ロケール ID では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

使用上のガイドライン

このコマンドを実行する前に、Connection Conversation Manager および Connection Mixer サービスを停止する必要があります。このコマンドを実行した後では、Connection Conversation Manager および Connection Mixer サービスを再起動する必要があります。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

次の例では、en-GB ロケールと、関連するすべてのファイルおよび設定を削除しています。

```
delete cuc locale en-GB
```

```
en-GB uninstalled
```

delete dns

このコマンドを使用すると、DNS サーバの IP アドレスを削除できます。

コマンド構文

```
delete dns ip-address
```

パラメータ

- ip-address* は、削除する DNS サーバの IP アドレスを表します。

使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



注意

続行すると、ネットワーク接続が一時的に切断されます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

delete ipsec policy_group

このコマンドは、指定したグループ内のすべてのポリシーを削除します。

コマンド構文

```
delete ipsec policy_group [group | all]
```

パラメータ

- [group] (必須) [ALL またはグループ]

使用上のガイドライン

すべてのグループを削除する場合は、**all** オプションを使用します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

delete ipsec policy_name

このコマンドは、指定されたポリシー名の ipsec ポリシーを削除します。

コマンド構文

```
delete ipsec policy_name [policy_name | all]
```

パラメータ

- [policy_name] (必須) [ALL またはポリシー名]

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

delete process

このコマンドを使用すると、特定のプロセスを削除できます。

コマンド構文

```
delete process process-id {force | terminate | crash}
```

パラメータ

- process-id は、プロセス ID 番号を表します。

オプション

- **force** : 停止するプロセスを表します。
- **terminate** : プロセスを停止するオペレーティング システムを表します。
- **crash** : プロセスをクラッシュさせ、クラッシュ ダンプを生成します。

使用上のガイドライン



(注)

force オプションは、コマンドだけではプロセスを削除できない場合にのみ使用してください。また、**terminate** オプションは、**force** によってプロセスを削除できない場合にのみ使用してください。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

delete smtp

このコマンドを使用すると、SMTP ホストを削除できます。

コマンド構文

delete smtp

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

File コマンド

このセクションでは、以下のコマンドについて説明します。

- 「[file check](#)」 (P.10)
- 「[file delete](#)」 (P.11)
- 「[file fragmentation sdi](#)」 (P.13)
- 「[file fragmentation sdl](#)」 (P.14)
- 「[file get](#)」 (P.14)
- 「[file list](#)」 (P.16)
- 「[file search](#)」 (P.17)
- 「[file tail](#)」 (P.18)
- 「[file view](#)」 (P.19)

file check

このコマンドは、/usr ディレクトリ ツリー内で、最新の新規インストールまたはアップグレードの後で追加、削除、またはサイズが変更されたファイルまたはディレクトリがないかどうかを調べ、結果を表示します。

コマンド構文

file check *detection-size-kb*

オプション

detection-size-kb : ファイルのサイズがこれ以上変化したときに、ファイルが変更されたとして表示される値です。

使用上のガイドライン

このコマンドでは、システムのパフォーマンスに与える可能性のある影響が示され、続行するかどうか尋ねられます。



注意

このコマンドを実行するとシステムのパフォーマンスに影響を与える可能性があるため、ピーク時を避けて実行することをお勧めします。

削除されたファイルと新しいファイルの両方が表示されます。

デフォルト

detection-size-kb のデフォルト値は、100KB です。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

file delete

このコマンドは、1 つまたは複数のファイルを削除します。

コマンド構文

file delete

activelog *directory/filename* {**detail** | **noconfirm**}

dir tftp *directory* **detail**

inactivelog *directory/filename* {**detail** | **noconfirm**}

install *directory/filename* {**detail** | **noconfirm**}

license *filename* **detail**

tftp *directory/filename* **detail**

パラメータ

- **activelog** は、アクティブ側のログを指定します。
- **dir tftp** *directory* は、*directory* によって指定された TFTP ディレクトリを削除します。*directory* では、ワイルドカード文字 (*) を使用することはできません。
- **inactivelog** は、非アクティブ側のログを指定します。
- **install** は、インストール ログを指定します。
- **license** *filename* は、*license* によって指定されたライセンス ファイルを削除します。*filename* としてワイルドカード文字 (*) を入力すると、すべてのライセンス ファイルを削除できます。
- **tftp** は、TFTP ファイルを指定します。
- *directory/filename* は、削除するファイルのパスとファイル名を指定します。*filename* には、ワイルドカード文字 * を使用できます。

オプション

- **detail** : 削除されたファイルと、日付および時刻のリストが表示されます。
- **noconfirm** : 削除のたびに確認を求めることなくファイルを削除します。

使用上のガイドライン

**注意**

削除されたファイルを復旧させることはできません。Disaster Recovery System を使用すると、復旧できる可能性があります。

コマンドを入力すると、確認を求めるプロンプトが表示されます。使用中のディレクトリやファイルを削除することはできません。

非アクティブ側で TFTP データ ファイルを削除すると、非アクティブ側にバージョンを切り替えたとき、そのファイルを手動で復元しなければならない可能性があります。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

次の例では、インストール ログを削除します。

```
file delete install install.log
```

file dump

このコマンドは、ファイルの内容を 1 ページずつ画面にダンプします。

コマンド構文

file dump

```
activelog directory/filename [detail] [hex]  
inactivelog directory/filename [detail] [hex]  
install directory/filename [detail] [hex]  
sftpdetails filename [hex] [regex expression] [recent]  
tftp directory/filename [detail] [hex]
```

パラメータ

- **activelog** は、アクティブ側のログを指定します。
- **inactivelog** は、非アクティブ側のログを指定します。
- **install** は、インストール ログを指定します。
- **sftpdetails** は、SFTP 関連のファイルを指定します。
- **tftp** は、TFTP ファイルを指定します。
- *directory/filename* は、ダンプするファイルのパスとファイル名を指定します。*filename* では、1 つのファイルを表す場合に限り、ワイルドカード文字 * を使用できます。
- *filename* は、ダンプするファイルのファイル名を指定します。

オプション

- **detail** : 日付および時刻とともにリスト表示されます。
- **hex** : 出力が 16 進数で表示されます。
- **regexp *expression*** : ファイル内で、正規表現 *expression* に一致する行だけが表示されます。
- **recent** : ディレクトリ内で、最新の変更ファイルが表示されます。

使用上のガイドライン

sftpdetails パラメータでダンプできるファイルを指定するには、最初に次のコマンドを入力します。

file list sftpdetails *

ダンプできるファイル名のリストが出力されます。

要件

コマンド特権レベル : ログの場合は 1、TFTP ファイルの場合は 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

このコマンドは、ファイル `_cdrIndex.idx` の内容をダンプします。

```
file dump activelog cm/cdr/_cdrIndex.idx
```

file fragmentation sdi

このコマンドは、SDI ログ ファイルのフラグメンテーション情報を表示します。

コマンド構文

file fragmentation sdi

```
all outfilename
file filename {verbose}
most fragmented number
most recent number
```

パラメータ

- **all** は、ディレクトリ内のすべてのファイルの情報を、*outfilename* で指定されたファイルに記録します。
- **file** は、*filename* で指定されたファイルの情報を表示します。
most fragmented は、フラグメンテーションが激しいファイルの情報を表示します。
most recent は、一番最近に記録された、フラグメンテーションのあるファイルの情報を表示します。
- **number** は、リストに表示するファイルの数を指定します。

オプション

- **verbose** : 詳細な情報を表示します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

file fragmentation sdl

このコマンドは、SDL ログ ファイルのフラグメンテーション情報を表示します。

コマンド構文

file fragmentation sdl

all *outfile*

file *filename* {**verbose**}

most fragmented *number*

most recent *number*

パラメータ

- **all** は、ディレクトリ内のすべてのファイルの情報を、*outfile* で指定されたファイルに記録します。
- **file** は、*filename* で指定されたファイルの情報を表示します。
- **most fragmented** は、フラグメンテーションが激しいファイルの情報を表示します。
- **most recent** は、一番最近に記録された、フラグメンテーションのあるファイルの情報を表示します。
- *number* は、リストに表示するファイルの数を指定します。

オプション

- **verbose** : 詳細な情報を表示します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

file get

このコマンドは、SFTP を使用してファイルを別のシステムに送ります。

コマンド構文

file get

activelog *directory/filename* [**reltime**] [**abstime**] [**match**] [**recurs**]

inactivelog *directory/filename* [**reltime**] [**abstime**] [**match**] [**recurs**]

install *directory/filename* [**reltime**] [**abstime**] [**match**] [**recurs**]

license *filename* [**reltime**] [**abstime**] [**match**] [**recurs**] [**compress**]

partBsalog *directory/filename* [**reltime**] [**abstime**] [**match**] [**recurs**]

```

salog directory/filename [reltime] [abstime] [match] [recurs]
tftp directory/filename [reltime] [abstime] [match] [recurs]

```

パラメータ

- **activelog** は、アクティブ側のログを指定します。
- **inactivelog** は、非アクティブ側のログを指定します。
- **install** は、インストール ログを指定します。
- **license** は、ライセンス ファイルを指定します。
- **partBsalog** は、partBsalog ログ ディレクトリを指定します。
- **salog** は、salog ログ ディレクトリを指定します。
- **tftp** は、TFTP ファイルを指定します。
- *directory/filename* は、削除するファイルのパスを指定します。*filename* では、1 つのファイルを表す場合に限り、ワイルドカード文字 * を使用できます。

オプション

- **abstime** : 絶対的な期間。hh:mm:MM/DD/YY hh:mm:MM/DD/YY 形式で表します。
- **reltime** : 相対的な期間。minutes | hours | days | weeks | months 値で表します。
- **match** : ファイル名の中で、文字列値で表される特定の文字列との一致を検索します。
- **recurs** : サブディレクトリを含め、すべてのファイルを取得します。
- **compress** : ファイルを圧縮ファイルとして転送します。

使用上のガイドライン

指定されたファイルをコマンドが認識すると、SFTP ホスト、ユーザ名、およびパスワードの入力を求められます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

このコマンドは、オペレーティング システムの **activelog** ディレクトリ内で文字列「plat」に一致するすべてのファイルを取得します。

```
file get activelog platform match plat
```

このコマンドは、特定の期間内のすべてのオペレーティング システム ログ ファイルを取得します。

```
file get activelog platform/log abstime 18:00:9/27/2005 18:00:9/28/2005
```

file list

このコマンドは、使用できるログ ディレクトリ内のログ ファイルをリスト表示します。

コマンド構文

file list

```
activelog directory [page] [detail] [reverse] [date | size]  
inactivelog directory [page] [detail] [reverse] [date | size]  
install directory [page] [detail] [reverse] [date | size]  
license filename [page] [detail] [reverse] [date | size]  
partBsalog directory [page] [detail] [reverse] [date | size]  
salog directory [page] [detail] [reverse] [date | size]  
tftp directory [page] [detail] [reverse] [date | size]
```

パラメータ

- **activelog** は、アクティブ側のログを指定します。
- **activelog audit** は、アクティブ側の監査ログを指定します。
- **inactivelog** は、非アクティブ側のログを指定します。
- **inactivelog audit** は、非アクティブ側の監査ログを指定します。
- **install** は、インストール ログを指定します。
- **license** は、*license* によって指定されるライセンス ファイルを表示します。*filename* としてワイルドカード文字 (*) を入力して、すべてのライセンス ファイルをリスト表示することができます。
- **partBsalog** は、partBsalog ログ ディレクトリを指定します。
- **salog** は、salog ログ ディレクトリを指定します。
- **tftp** は、TFTP ファイルを指定します。
- *directory* は、リスト表示するディレクトリのパスを指定します。*directory* では、1 つのディレクトリを表す場合に限り、ワイルドカード文字 * を使用できます。

オプション

- **detail** : 日付および時刻を含む長いリスト。
- **date** : 日付によるソート。
- **size** : サイズによるソート。
- **reverse** : 反対方向のソート。
- **page** : 一度に 1 画面ずつ表示します。

要件

コマンド特権レベル : ログの場合は 1、TFTP ファイルの場合は 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

この例では、オペレーティング システム ログ ファイルの詳細がリスト表示されます。

```
file list activelog platform/log page detail
```

この例では、CDR リポジトリ内のディレクトリがリスト表示されます。

```
file list activelog cm/cdr_repository
```

この例では、指定したディレクトリ内の CDR ファイルがサイズに基づいてリスト表示されます。

```
file list activelog cm/cdr_repository/processed/20050812 size
```

Cisco Unity Connection および Cisco Unified Communications Manager Business Edition では、この例によって cuc ログ ディレクトリ内のすべてのファイルがリスト表示されます。

```
file list activelog cuc *
```

file search

このコマンドは、ログの内容を検索し、一致した行を一度に 1 ページずつ表示します。

コマンド構文**file search**

```
iaactivelog directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy]  
[ignorecase] [retime {days | hours | minutes} timevalue]
```

```
inactivelog directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy]  
[ignorecase] [retime {days | hours | minutes} timevalue]
```

```
install directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy]  
[ignorecase] [retime {days | hours | minutes} timevalue]
```

```
tftp directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy] [ignorecase]  
[retime {days | hours | minutes} timevalue]
```

パラメータ

- **activelog** は、アクティブ側のログを指定します。
- **inactivelog** は、非アクティブ側のログを指定します。
- **install** は、インストール ログを指定します。
- **tftp** は、TFTP ファイルを指定します。
- *reg-exp* は、正規表現を表します。
- *directory/filename* は、検索するファイルのパスを表します。ワイルドカード文字 * を使用して、ファイル名の全体または一部を表すことができます。

オプション

- **abstime** : ファイルの作成時刻に基づいて、検索するファイルを指定します。開始時刻と終了時刻を入力してください。
- **days|hours|minutes** : ファイルの経過時間を日数、時間、または分によって指定します。
- **ignorecase** : 検索時に大文字と小文字の違いを無視します。

- **retime** : ファイルの作成時刻に基づいて、検索するファイルを指定します。検索するファイルの経過時間を入力します。
- **hh:mm:ss mm/dd/yyyy** : 絶対時刻。形式は、時:分:秒 月/日/年。
- **timevalue** : 検索するファイルの経過時間。この値の単位は、{**days | hours | minutes**} オプションで指定します。

使用上のガイドライン

検索条件は正規表現の形で記述します。正規表現とは、検索パターンを表す特殊なテキスト文字列です。

検索条件が 1 つのファイル内にもみ見つかった場合は、そのファイル名が出力の一番上に表示されます。検索条件が複数のファイル内にもみ見つかった場合は、出力の各行の先頭に、一致が見つかったファイルの名前が示されます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
file search activelog platform/log/platform.log Err[a-z] ignorecase
```

file tail

このコマンドは、ログ ファイルをテイル（最後の数行を出力）します。

コマンド構文

file tail

```
activelog directory/filename [detail] [hex] [lines]  
inactivelog directory/filename [detail] [hex] [lines]  
install directory/filename [detail] [hex] [lines]  
tftp directory/filename [detail] [hex] [lines]
```

パラメータ

- **activelog** は、アクティブ側のログを指定します。
- **inactivelog** は、非アクティブ側のログを指定します。
- **install** は、インストール ログを指定します。
- **tftp** は、TFTP ファイルを指定します。
- **directory/filename** は、テイルするファイルのパスを指定します。**filename** では、1 つのファイルを表す場合に限り、ワイルドカード文字 * を使用できます。

オプション

- **detail** : 日付および時刻を含む長いリスト
- **hex** : 16 進数リスト
- **lines** : 表示する行数

要件

コマンド特権レベル：ログの場合は 1、TFTP ファイルの場合は 0

アップグレード時の使用：可能

例

この例では、オペレーティング システムの CLI ログ ファイルがテイルされます。

```
file tail activelog platform/log/cli00001.log
```

file view

このコマンドは、ファイルの内容を表示します。

コマンド構文**file view**

```
activelog directory/filename
inactivelog directory/filename
install directory/filename
license filename
system-management-log
tftp directory/filename
```

パラメータ

- **activelog** は、アクティブ側のログを指定します。
- **inactivelog** は、非アクティブ側のログを指定します。
- **install** は、インストール ログを指定します。
- **license filename** は、**license** によって指定されたライセンス ファイルを表示します。ワイルドカード文字 (*) を **filename** として入力して、すべてのライセンス ファイルのリストを表示することができます。
- **system-management-log** は、Integrated Management Logs (IML) の内容を表示します。
- **tftp** は、TFTP ファイルを指定します。
- **directory/filename** は、表示するファイルのパスを指定します。**filename** では、1 つのファイルを表す場合に限り、ワイルドカード文字 * を使用できます。

使用上のガイドライン**注意**

このコマンドは、バイナリ ファイルを表示するためには使用しないでください。ターミナルセッションが終了することがあります。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

例

この例では、インストール ログが表示されます。

```
file view install install.log
```

この例では、特定の CDR ファイルが表示されます。

```
file view activelog /cm/cdr_repository/processed/20058012/{filename}
```

Run コマンド

このセクションでは、以下のコマンドについて説明します。

- 「run cuc dbquery (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.20)
- 「run cuc smtpstest (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.21)
- 「run cuc sysagent task (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.21)
- 「run cuc vui rebuild (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.22)
- 「run loadxml」 (P.22)
- 「run sql」 (P.22)

run cuc dbquery (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、SQL クエリを実行し、結果を表示します。

コマンド構文

```
run cuc dbquery database_name sql_statement [page]
```

パラメータ

- *database_name* は、*sql_statement* の操作対象となるデータベースを指定します。データベース名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。Connection のデータベースには、以下が含まれています。
 - **unitydirdb** : ディレクトリと設定データを含みます。
 - **unitydyndb** : Connection が内部的に使用する動的なデータを含みます。
 - **unitymbxdb1** から **unitymbxdb5** : 対応するメールボックス ストア内の現在の音声メッセージに関するデータを含みます。これには、ファイル システム内に格納されている音声ファイルへのポインタも含まれます。構成済みのメールボックス ストアが 1 つだけの場合、メールボックス ストア データベースの名前は常に **unitymbxdb1** になります。
 - **unityrptdb** : 音声ログ データを含みます。
- *sql_statement* は、実行する SQL クエリを指定します。

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

次の例は、SQL クエリ **select alias from vw_usertemplate** を **unitydirdb** データベースに対して実行します。

```
run cuc dbquery unitydirdb select alias from vw_usertemplate
```

```
alias
-----
AdministratorTemplate
VoiceMailUserTemplate
```

run cuc smtpstest (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、SpeechView トランスクリプションの SMTP 送受信設定を確認するのに役立つテストを開始します。このテストによって、指定された電子メールアドレスにテストメッセージが送信されます。次に、ユーザはその電子メールアカウントにアクセスし、件名を変更せずにテストメッセージに返信します。Cisco Unity Connection サーバが返信を受信すればテスト終了です。テストが成功または失敗した部分が変わることにより、トランスクリプションの SMTP 送受信設定の問題特定に役立ちます。

コマンド構文

```
run cuc smtpstest email_address
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

run cuc sysagent task (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、Sysagent のタスクを実行します。

コマンド構文

```
run cuc sysagent task task_name
```

パラメータ

- *task_name* は、実行する **sysagent** タスクの名前を指定します。

Sysagent タスクのリストを表示するには、**show cuc sysagent task list (Cisco Unity Connection のみ)** コマンドを実行します。sysagent タスク名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

次の例では、Sysagent タスク **CleanDeletedMessagesTask** が実行されます。

```
run cuc sysagent task CleanDeletedMessagesTask
```

```
CleanDeletedMessagesTask started
```

run cuc vui rebuild (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、音声認識転送ユーティリティに対して、確定前の変更を使って音声認識名の文法をただちに再構築するように指示します。

コマンド構文

```
run cuc vui rebuild
```

使用上のガイドライン

このコマンドを実行することによって再構築されるのは、データベース内で変更のフラグが付けられている文法だけです。名前の文法の更新ブラックアウト スケジュールは無視されます。また、このコマンドはただちに実行されます。名前に関するデータは大量になる可能性があります。それらをデータベースから取得するオーバーヘッドを考慮して、このコマンドの使用はできるだけ控え、どうしても必要な場合にのみ使用してください。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

run loadxml

このコマンドは、サービスのパラメータまたは製品固有の情報が、意図したとおりに管理ウィンドウに表示されない場合の回避策として実行します。

このコマンドの後で、一部のサービスを再起動しなければならない場合があります。

コマンド構文

```
run loadxml
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

run sql

このコマンドを使用すると、SQL コマンドを実行できます。

コマンド構文

```
run sql sql_statement
```

パラメータ

- `sql_statement` は、実行する SQL コマンドを表します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

この例では、SQL コマンドが実行されます。

```
run sql select name from device
```

Set コマンド

このセクションでは、以下のコマンドについて説明します。

- 「[set account](#)」 (P.24)
- 「[set account enable](#)」 (P.24)
- 「[set cert](#)」 (P.25)
- 「[set commandcount](#)」 (P.26)
- 「[set cli pagination](#)」 (P.27)
- 「[set cuc trace \(Cisco Unity Connection のみ\)](#)」 (P.27)
- 「[set ipsec policy_group](#)」 (P.28)
- 「[set ipsec policy_name](#)」 (P.28)
- 「[set logging](#)」 (P.29)
- 「[set network dhcp](#)」 (P.29)
- 「[set network dns](#)」 (P.30)
- 「[set network dns options](#)」 (P.31)
- 「[set network domain](#)」 (P.31)
- 「[set network failover](#)」 (P.32)
- 「[set network gateway](#)」 (P.32)
- 「[set network hostname \(Cisco Unified Communications Manager のみ\)](#)」 (P.33)
- 「[set network ip eth0](#)」 (P.34)
- 「[set network ipv6](#)」 (P.35)
- 「[set network mtu](#)」 (P.35)
- 「[set network max_ip_contrack](#)」 (P.36)
- 「[set network nic eth0](#)」 (P.36)
- 「[set network pmtud](#)」 (P.37)
- 「[set network restore](#)」 (P.38)
- 「[set network status](#)」 (P.38)
- 「[set password expiry](#)」 (P.39)

- 「set password age maximum」 (P.39)
- 「set password age minimum」 (P.40)
- 「set password complexity character」 (P.40)
- 「set password complexity minimum-length」 (P.41)
- 「set password history」 (P.41)
- 「set password inactivity」 (P.41)
- 「set password user」 (P.42)
- 「set registry」 (P.43)
- 「set smtp」 (P.43)
- 「set timezone」 (P.44)
- 「set trace」 (P.45)
- 「set web-security」 (P.46)
- 「set workingdir」 (P.47)

set account

このコマンドは、オペレーティング システム上に新規アカウントを設定します。

コマンド構文

set account *name*

パラメータ

- *name* は、新規アカウントのユーザ名を表します。

使用上のガイドライン

ユーザ名を入力すると、この新規アカウントの特権レベルおよびパスワードの入力を求められます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

set account enable

このコマンドは、パスワードが非アクティブであるためにディセーブルになっていた OS ユーザ アカウントをイネーブルにします。

コマンド構文

Set account enable *user-id*

パラメータ

- *user-id* には、ディセーブルになっていたアカウントのユーザ ID を指定します。

set cert

このコマンドは、事前に設定した SFTP ロケーションで使用できる証明書に影響を与えます。

コマンド構文

set cert

bulk [unit]

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

export [unit]

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

import [unit]

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

regen [name]

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

sftp

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

パラメータ

- **bulk** は、すべての証明書を事前に設定した SFTP ロケーションに統合し、統合したファイルを同じ SFTP ロケーションにエクスポートします。
- **export** は、このクラスタ内のこのユニットに使用可能なすべての証明書を事前に設定した SFTP ロケーションにエクスポートします。
- **import** は、SFTP ロケーションにある証明書を指定したユニット信頼ストアにインポートします。
- **regen** は、指定されたユニットの証明書を再生成します。
- **sftp** は、バルク操作に使用される SFTP サーバ情報の入力を求めます。

オプション

- *unit* : ユニット名を表します。
- *name* : ユニット名を表します。

bulk の例

```
admin:set cert bulk all
```

```
Successfully consolidated certifactes for unit tomcat.  
Successfully consolidated certifactes for unit tftp
```

export の例

```
admin:set cert export all
```

```
Successfully exported tomcat certificate(s) to sftp server.  
Successfully exported tftp certificate(s) to sftp server.
```

import の例

```
admin:set cert import all
```

```
Successfully imported tomcat certificates.  
Successfully imported tftp certificates.
```

sftp の例

```
admin:set cert sftp  
SFTP Ip Address :1.1.1.1  
SFTP server port [22] :  
User Id :user  
Password :*  
Remote Directory :/tmp  
Sftp configuration update is successful.
```

regen の例

```
admin: set cert regen tomcat  
Successfully regenerated certificate for tomcat.
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

set commandcount

このコマンドは、CLI コマンド プロンプトを変更して、実行済みの CLI コマンドの数が表示されるようにします。

コマンド構文

```
set commandcount {enable | disable}
```

パラメータ

- **enable** を指定すると、コマンドの数のカウントがオンになります。
- **disable** を指定すると、コマンドの数のカウントがオフになります。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

set cli pagination

このコマンドは、現在の CLI セッションで自動改ページをオンまたはオフにします。

コマンド構文

```
set cli pagination {on | off}
```

パラメータ

- **on** を指定すると、改ページがオンになります。
- **off** を指定すると、改ページがオフになります。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

例

```
admin:set cli pagination off
Automatic pagination is turned off
```

set cuc trace (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドを使用すると、指定されたトレースおよびトレース レベルをイネーブルまたはディセーブルにすることができます。

コマンド構文

```
set cuc trace {enable | disable} trace_name level
```

パラメータ

- **enable** を指定すると、Connection トレースがイネーブルになります。**enable** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。
- **disable** を指定すると、Connection トレースがディセーブルになります。**disable** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。
- **trace_name** は、イネーブルまたはディセーブルにするトレースの名前を指定します。トレース名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。
- **level** は、イネーブルまたはディセーブルにする **trace_name** のレベルを指定します。各トレースは、最大で 31 のレベルから構成され、0 から 30 の番号が付けられます。指定されたトレースに関して、各レベルに応じて異なるタイプの情報が提供されます。複数のレベルをイネーブルまたはディセーブルにする場合は、カンマを使用してレベルを区切り、ハイフンを使用してレベルの範囲を表すことができます。スペースは使用できません。

使用上のガイドライン

現在有効なトレースおよびトレース レベルのリストを表示するには、[show cuc trace levels \(Cisco Unity Connection のみ\)](#) コマンドを使用します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

次の例は、VUI トレース 1、13、および 17 から 20 をイネーブルにします。

```
set cuc trace enable VUI 1,13,17-20
```

```
VUI trace levels are now set to: 1,13,17-20
```

次の例は、VUI トレース 17 から 20 をディセーブルにします。VUI トレース レベル 1 および 13 は引き続き設定されています。

```
set cuc trace disable VUI 17-20
```

```
VUI trace levels are now set to: 1,13
```

set ipsec policy_group

このコマンドは、指定されたポリシー グループ名の ipsec ポリシーをイネーブルにします。

コマンド構文

```
set ipsec policy_group [group]
```

パラメータ

- [group] (必須) ALL またはグループ名

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set ipsec policy_name

このコマンドは、指定されたポリシーをイネーブルにします。

コマンド構文

```
set ipsec policy_name [policy_name]
```

パラメータ

- [policy_name] (必須) ALL またはポリシー名

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set logging

このコマンドを使用すると、CLI Admin ログをイネーブルまたはディセーブルにすることができます。

コマンド構文

```
set logging {enable | disable}
```

パラメータ

- **enable** を指定すると、ロギングがオンになります。
- **disable** を指定すると、ロギングがオフになります。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

set network dhcp

このコマンドは、イーサネット インターフェイス 0 の DHCP をイネーブルまたはディセーブルにします。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。

コマンド構文

```
set network dhcp eth0
```

```
enable
```

```
disable node_ip net_mask gateway_ip
```

パラメータ

- **eth0** は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。
- **enable** は、DHCP をイネーブルにします。
- **disable** は、DHCP をディセーブルにします。
- **node_ip** は、サーバの新しい固定 IP アドレスを表します。
- **net_mask** は、サーバのサブネット マスクを表します。
- **gateway_ip** は、デフォルト ゲートウェイの IP アドレスを表します。

使用上のガイドライン

Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection が VMware 上にインストールされている場合、**set network dhcp** コマンドを実行すると、ライセンス MAC の計算値が変更され、Cisco Unified CM または Connection ライセンスが無効になります。

Cisco Unified CM ライセンスの置き換えの詳細は、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/install/8_0_2/install/cmins802.html#wp524389 にアクセスし、『Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)』の「Obtaining Rehoused Licenses When You Change License MAC Parameters」を参照してください。

Connection ライセンスの置き換えについては、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html にアクセスし、『System Administration Guide for Cisco Unity Connection』の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection」を参照してください。

このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



注意

続行すると、システムが再起動されます。また、IP アドレスを 1 つでも変更したときは、必ずすべてのノードを再起動することをお勧めします。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set network dns

このコマンドは、プライマリまたはセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。

コマンド構文

```
set network dns {primary | secondary} ip-address
```

パラメータ

- *ip-address* は、プライマリまたはセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを表します。

使用上のガイドライン

Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection が VMware 上にインストールされている場合、**set network dns primary** コマンドを実行すると、ライセンス MAC の計算値が変更され、Cisco Unified CM または Connection ライセンスが無効になります。

Cisco Unified CM ライセンスの置き換えの詳細は、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/install/8_0_2/install/cmins802.html#wp524389 にアクセスし、『Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)』の「Obtaining Rehosted Licenses When You Change License MAC Parameters」を参照してください。

Connection ライセンスの置き換えについては、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html にアクセスし、『System Administration Guide for Cisco Unity Connection』の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection」を参照してください。

このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



(注)

プライマリ DNS サーバの IP アドレスを変更する場合は、Cisco Tomcat サービスも再起動する必要があります。詳細については、[utils service](#) コマンドを参照してください。



注意

続行すると、ネットワーク接続が一時的に切断されます。DNS サーバの IP アドレスを変更した場合は、Cisco Tomcat を再起動する必要があります。詳細は、「[utils service](#)」(P.142) を参照してください。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set network dns options

このコマンドは、DNS オプションを設定します。

コマンド構文

```
set network dns options [timeout seconds] [attempts number] [rotate]
```

パラメータ

- **timeout** は、DNS 要求のタイムアウトを設定します。
- **attempts** は、DNS 要求を試みる回数を設定します。
- **rotate** を指定すると、負荷を分散するために、設定されている DNS サーバ間でローテーションが行われます。
- **seconds** は、DNS のタイムアウトまでの長さを秒数で指定します。
- **number** は、試行回数を指定します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

set network domain

このコマンドは、システムのドメイン名を設定します。

コマンド構文

```
set network domain domain-name
```

パラメータ

- **domain-name** は、割り当てるシステム ドメインを表します。

使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



注意

続行すると、ネットワーク接続が一時的に切断されます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

set network failover

このコマンドは、Media Convergence Server ネットワーク インターフェイス カードの Network Fault Tolerance をイネーブルまたはディセーブルにします。

コマンド構文

failover {enable | disable}

パラメータ

- **enable** は、Network Fault Tolerance をイネーブルにします。
- **disable** は、Network Fault Tolerance をディセーブルにします。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set network gateway

このコマンドを使用すると、ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを設定できます。

コマンド構文

set network gateway *ip-address*

パラメータ

- *ip-address* は、割り当てるネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを表します。

使用上のガイドライン

Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection が VMware 上にインストールされている場合、**set network gateway** コマンドを実行すると、ライセンス MAC の計算値が変更され、Cisco Unified CM または Connection ライセンスが無効になります。

Cisco Unified CM ライセンスの置き換えの詳細は、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/install/8_0_2/install/cmins802.html#wp524389 にアクセスし、『Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)』の「Obtaining Rehosted Licenses When You Change License MAC Parameters」を参照してください。

Connection ライセンスの置き換えについては、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html にアクセスし、『System Administration Guide for Cisco Unity Connection』の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection」を参照してください。

このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



注意

続行すると、システムが再起動されます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set network hostname (Cisco Unified Communications Manager のみ)



(注) Cisco Unity Connection サーバのホスト名の変更については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_installation_guides_list.html にアクセスし、該当する *Reconfiguration and Upgrade Guide* の「Renaming Servers」の章を参照してください。

このコマンドは、ネットワーク ホスト名を設定してから、システムを再起動します。

コマンド構文

```
set network hostname hostname
```

パラメータ

- *hostname* は、システムの新しいネットワーク ホスト名を表します。



(注) ホスト名は、ARPANET ホスト名の規則に従っている必要があります。先頭と末尾はアルファベット文字でなければならない、それ以外の部分には英数字、ハイフンを使用できます。ホスト名の長さは 63 文字までです。

使用上のガイドライン

Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection が VMware 上にインストールされている場合、**set network hostname** コマンドを実行すると、ライセンス MAC の計算値が変更され、Cisco Unified CM または Connection ライセンスが無効になります。

Cisco Unified CM ライセンスの置き換えの詳細は、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/install/8_0_2/install/cmins802.html#wp524389 にアクセスし、『Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)』の「Obtaining Rehoused Licenses When You Change License MAC Parameters」を参照してください。

Connection ライセンスの置き換えについては、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html にアクセスし、『System Administration Guide for Cisco Unity Connection』の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection」を参照してください。

このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



注意 続行すると、システムが再起動されます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
admin:set network hostname myname
```

W A R N I N G

```
This will cause the system to restart - Do you want to continue ?
Enter "yes" to continue and restart or any other key to abort
```

```

yes
executing...
Broadcast message from root (Thu Jun 24 13:00:21 2008):

The system is going down for restart NOW!

```

set network ip eth0

このコマンドは、イーサネット インターフェイス 0 の IP アドレスを設定します。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。

コマンド構文

```
set network ip eth0 ip-address ip-mask
```

パラメータ

- **eth0** は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。
- *ip-address* は、割り当てる IP アドレスを表します。
- *ip-mask* は、割り当てる IP マスクを表します。

使用上のガイドライン

Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection が VMware 上にインストールされている場合、**set network ip eth0** コマンドを実行すると、ライセンス MAC の計算値が変更され、Cisco Unified CM または Connection ライセンスが無効になります。

Cisco Unified CM ライセンスの置き換えの詳細は、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/install/8_0_2/install/cmins802.html#wp524389 にアクセスし、『Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)』の「Obtaining Rehoused Licenses When You Change License MAC Parameters」を参照してください。

Connection ライセンスの置き換えについては、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html にアクセスし、『System Administration Guide for Cisco Unity Connection』の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection」を参照してください。

このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



注意

続行すると、システムが再起動されます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set network ipv6

このコマンドは、IPv6 用にシステムおよびネットワークのオプションを設定します。



(注) IPv6 は、Cisco Unified Communications Manager Business Edition および Cisco Unity Connection ではサポートされていません。

コマンド構文

set network ipv6

```

dhcp {enable|disable} [reboot]
service {enable|disable} [reboot]
static_address ipv6_address mask [reboot]

```

パラメータ

- **dhcp** は、サーバで DHCPv6 クライアントをイネーブルまたはディセーブルにします。デフォルトでは、DHCPv6 クライアントをイネーブルにした後でサーバは再起動されません。変更を反映するには、**reboot** パラメータを指定するか手動でサーバを再起動することによって、サーバを再起動する必要があります。
- **service** は、サーバで IPv6 サービスをイネーブルまたはディセーブルにします。デフォルトでは、IPv6 サービスをイネーブルまたはディセーブルにすると、その後でサーバは再起動されます。**noreboot** パラメータを入力すると、サーバは自動的に再起動されません。変更を反映するには、手動で再起動する必要があります。
- **static_address** は、サーバに固定 IPv6 アドレスを割り当てます。デフォルトでは、固定 IPv6 アドレスを割り当てた後でサーバは再起動されません。変更を反映するには、**reboot** パラメータを指定するか手動でサーバを再起動することによって、サーバを再起動する必要があります。
- **ipv6_address** は、サーバに割り当てる固定 IPv6 アドレスを指定します。
- **mask** は、IPv6 ネットワーク マスク (0 ~ 128) を指定します。
- **reboot** を指定すると、コマンドの入力後にサーバは自動的に再起動します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set network mtu

このコマンドは、MTU の最大値を設定します。

コマンド構文

```

set network mtu mtu_max

```

パラメータ

- **mtu_max** は、MTU の最大値を指定します。



(注) システムのデフォルト MTU 値は、1500 です。

使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。

**注意**

続行すると、システムのネットワーク接続が一時的に失われます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

例

```
admin:set network mtu 576
      W A R N I N G
This will cause the system to temporarily lose network connectivity

      Do you want to continue ?

Enter "yes" to continue or any other key to abort

yes
executing...
```

set network max_ip_conntrack

このコマンドは、`ip_conntrack_max` 値を設定します。

コマンド構文

```
set network max_ip_conntrack ip_conntrack_max
```

パラメータ

- `ip_conntrack_max` は、`ip_conntrack_max` の値を指定します。

set network nic eth0

このコマンドは、イーサネット インターフェイス 0 のプロパティを設定します。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。

コマンド構文

```
set network nic eth0 [auto en | dis] [speed 10 | 100] [duplex half | full]
```

パラメータ

- `eth0` は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。
 - `auto` は、自動ネゴシエーションをイネーブルにするかディセーブルにするかを指定します。
 - `speed` は、イーサネット接続の速度を 10 Mb/秒と 100 Mb/秒のどちらにするかを指定します。
 - `duplex` は、半二重または全二重を指定します。

使用上のガイドライン

Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection が VMware 上にインストールされている場合、**set network nic eth0** コマンドを、**auto** パラメータ（自動ネゴシエーションをイネーブルかディセーブルにする）または **speed** パラメータ（イーサネット接続の速度を 10 Mb/秒か 100 Mb/秒に指定する）を指定して実行すると、ライセンス MAC の計算値が変更され、Cisco Unified CM または Connection ライセンスが無効になります。

Cisco Unified CM ライセンスの置き換えの詳細は、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/install/8_0_2/install/cmins802.html#wp524389 にアクセスし、『Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)』の「Obtaining Rehosted Licenses When You Change License MAC Parameters」を参照してください。

Connection ライセンスの置き換えについては、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html にアクセスし、『System Administration Guide for Cisco Unity Connection』の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection」を参照してください。

このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



(注) 同時にイネーブルにできる NIC は 1 つだけです。



注意 続行すると、NIC がリセットされる間、ネットワーク接続が切断されます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set network pmtud

このコマンドは、Path MTU Discovery をイネーブルまたはディセーブルにします。

コマンド構文

set network pmtud [enable | disable]

パラメータ

- **enable** は、Path MTU Discovery をイネーブルにします。
- **disable** は、Path MTU Discovery をディセーブルにします。

使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。



注意 続行すると、システムのネットワーク接続が一時的に失われます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

例

```

admin:set network pmtud enable
      W A R N I N G
This will cause the system to temporarily lose network connectivity

      Do you want to continue ?

Enter "yes" to continue or any other key to abort
yes
executing...
admin:

```

set network restore

このコマンドは、指定されたイーサネット ポートを、指定された固定 IP アドレスを使用するように設定します。

**注意**

このコマンド オプションは、他の **set network** コマンドを使用してネットワーク接続を復元できない場合にのみ使用してください。このコマンドでは、指定されたネットワーク インターフェイスに関する今までのネットワーク設定が、**Network Fault Tolerance** も含めてすべて削除されます。このコマンドを実行した場合は、後から以前のネットワーク設定を手動で復元する必要があります。

**注意**

このコマンドを実行すると、サーバのネットワーク接続が一時的に失われます。

コマンド構文

```
set network restore eth0 ip-address network-mask gateway
```

パラメータ

- **eth0** は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。
- **ip-address** は、IP アドレスを指定します。
- **network-mask** は、サブネット マスクを指定します。
- **gateway** は、デフォルト ゲートウェイの IP アドレスを指定します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

set network status

このコマンドは、イーサネット 0 をアップまたはダウンに設定します。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。

コマンド構文

```
set network status eth0 {up | down}
```

パラメータ

- **eth0** は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。

使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。

**注意**

続行すると、システムのネットワーク接続が一時的に失われます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

set password expiry

このコマンドは、Unified CM OS アカウントのパスワードの期限切れをイネーブルまたはディセーブルにします。

コマンド構文

```
set password expiry {enable|disable}
```

パラメータ

- **enable** は、パスワードの期限切れをオンにします。
- **disable** は、パスワードの期限切れをオフにします。

使用上のガイドライン

set password expiry enable コマンドは、Unified CM OS 管理アカウントのパスワードの最大経過時間を 3650 日（10 年）に設定します。

set password expiry disable コマンドを実行すると、CUCM OS 管理アカウントは期限切れが発生しなくなります。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

set password age maximum

このコマンドは、Cisco Unified Operating System アカウントのパスワードの最大経過時間を、日数による値を使用して変更します。

コマンド構文

```
set password age maximum days
```

パラメータ

days は、パスワードの最大経過時間を指定します。この値は、90 日以上でなければなりません。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set password age minimum

このコマンドは、OS 管理アカウントのパスワードの最小経過時間の値（日数）を変更する場合に使用します。

コマンド構文

```
set password age minimum days
```

パラメータ

days（必須）許容できる値は 0 ～ 10 です。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

set password complexity character

このコマンドは、パスワードの文字の種類に対して、パスワードの複雑度の規則をイネーブルにします。

コマンド構文

```
set password complexity character {enable|disable}
```

パラメータ

- **enable** は、文字に対してパスワードの複雑度をオンにします。
- **disable** は、文字に対してパスワードの複雑度をオフにします。

使用上の注意

パスワードの複雑度をイネーブルにした場合は、パスワードの割り当て時に以下のガイドラインに従う必要があります。

- 少なくとも 1 つの小文字を含むこと。
- 少なくとも 1 つの大文字、1 つの数字、および 1 つの特殊文字を含むこと。
- キーボード上で隣り合っている文字を使用することはできません。
- 過去 10 回以内に使用したパスワードを再使用することはできません。
- 管理ユーザのパスワードは、24 時間に 1 回しか変更できません。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set password complexity minimum-length

このコマンドは、Cisco Unified Operating System アカウントのパスワードの最小文字数を変更します。



(注)

このコマンドを使用するには、あらかじめパスワード文字の複雑度をイネーブルにしてください。

コマンド構文

set password complexity minimum-length *length*

パラメータ

- *length* は、最小文字数を指定します。この値は、6 以上でなければなりません。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

set password history

このコマンドは、OS 管理アカウントの履歴に保持されるパスワードの数を変更します。すでに記憶されているパスワードに一致する新規パスワードは拒否されます。

コマンド構文

set password history *number*

パラメータ

number (必須) 履歴に保持されるパスワードの数

使用上のガイドライン

- ディセーブルにするには、0 を入力します。
- デフォルトは 10 です。
- 上限は 20 です。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

set password inactivity

このコマンドは、パスワードの非アクティビティをイネーブル、ディセーブル、または設定します。

コマンド構文

set password inactivity [*enable* | *disable* | *period days*]

パラメータ

- *days* には、パスワードが期限切れになってからアカウントがディセーブルになるまでの非アクティビティの日数を指定します。

使用上のガイドライン

- パスワードの非アクティビティをグローバルにイネーブルにするには、**set password inactivity enable** コマンドを実行します。このコマンドは、パスワードの非アクティビティをグローバルにイネーブルにし、その設定に従って個々の OS ユーザを更新します。
- パスワードの非アクティビティをグローバルにディセーブルにするには、**set password inactivity disable** コマンドを実行します。このコマンドは、パスワードの非アクティビティをグローバルにディセーブルにし、その設定に従って個々の OS ユーザを更新します。
アカウントがディセーブルになっているユーザが再度システムを使用するには、システム管理者に問い合わせる必要があります。
- パスワードの非アクティビティ期間を設定するには、**set password inactivity period days** コマンドを実行します。このコマンドは、パスワードの非アクティビティをグローバルに設定し、その設定に従って個々の OS ユーザを更新します。

set password user

このコマンドを使用すると、管理者およびセキュリティのパスワードを変更できます。

コマンド構文

```
set password user {admin | security}
```

パラメータ

- **admin** は、管理者パスワードを指定します。
- **security** は、セキュリティ パスワードを指定します。

使用上のガイドライン

以前のパスワードと新しいパスワードの入力を求められます。



(注)

パスワードは 6 文字以上でなければならず、システムがパスワードの強度を確認します。

クラスタ内のサーバは、サーバ間での通信を認証するためにセキュリティ パスワードを使用します。セキュリティ パスワードを変更した場合は、クラスタをリセットする必要があります。

手順

- ステップ 1** セキュリティ パスワードをパブリッシュ サーバ（第 1 ノード）で変更し、その後、サーバ（ノード）をリブートします。
- ステップ 2** 他のすべてのサーバ/ノードで、セキュリティ パスワードを第 1 ノードで作成したパスワードと同じものに変更してから、パスワードの変更を反映するために、アプリケーション サーバを含めてこれらのノードを再起動します。



(注)

各サーバは、そのサーバでパスワードを変更してから再起動することをお勧めします。

**注意**

サーバ（ノード）をリブートしないと、システム サービスで問題が発生したり、サブスクライバサーバの [Cisco Unified Communications Manager Administration] ウィンドウで問題が発生します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

set registry

このコマンドは、レジストリ エントリを新しい値に設定します。

コマンド構文

```
set registry {system | component} param value
```

パラメータ

- **system** には、レジストリのシステム名を指定します。
- **component** には、レジストリのコンポーネント名を指定します。

オプション

- *param* : 設定するパラメータの名前
- *valu* : *param* に割り当てる値

例

```
admin:set registry cm dbl/sdi numlines 500
system = cm
  component = dbl/sdi
    numlines old value = 10000
    numlines new value = 500
```

要件

コマンド特権レベル：99

アップグレード時の使用：不可

set smtp

このコマンドは、SMTP サーバのホスト名を設定します。

コマンド構文

```
set smtp hostname
```

パラメータ

- *hostname* は、SMTP サーバ名を表します。

使用上のガイドライン

Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection が VMware 上にインストールされている場合、**set smtp** コマンドを実行すると、ライセンス MAC の計算値が変更され、Cisco Unified CM または Connection ライセンスが無効になります。

Cisco Unified CM ライセンスの置き換えの詳細は、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/install/8_0_2/install/cmins802.html#wp524389 にアクセスし、『Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)』の「Obtaining Rehosted Licenses When You Change License MAC Parameters」を参照してください。

Connection ライセンスの置き換えについては、
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html にアクセスし、『System Administration Guide for Cisco Unity Connection』の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection」を参照してください。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

set timezone

このコマンドを使用すると、システムの時間帯を変更できます。

コマンド構文

```
set timezone timezone
```

パラメータ

- *timezone* は、新しい時間帯を指定します。



(注)

show timezone list コマンドによって作成される使用可能な時間帯のリストには **Factory** が含まれていますが、Cisco Unified Communications Manager では **Factory** という時間帯はサポートされません。

使用上のガイドライン

Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection が VMware 上にインストールされている場合、**set timezone** コマンドを実行すると、ライセンス MAC の計算値が変更され、Cisco Unified CM または Connection ライセンスが無効になります。

Cisco Unified CM ライセンスの置き換えの詳細は、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/install/8_0_2/install/cmins802.html#wp524389 にアクセスし、『Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)』の「Obtaining Rehosted Licenses When You Change License MAC Parameters」を参照してください。

Connection ライセンスの置き換えについては、
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html にアクセスし、『System Administration Guide for Cisco Unity Connection』の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection」を参照してください。

新しい時間帯を一意に識別できるだけの文字を入力します。時間帯の名前では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

**注意**

時間帯を変更した場合は、システムを再起動する必要があります。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

例

この例では、時間帯を Pacific 時間に設定します。

```
set timezone Pac
```

set trace

このコマンドは、指定されたタスクにトレース アクティビティを設定します。

コマンド構文

set trace

```

enable Error tname
enable Special tname
enable State_Transition tname
enable Significant tname
enable Entry_exit tname
enable Arbitrary tname
enable Detailed tname
disable tname

```

パラメータ

- *tname* は、トレースをイネーブルまたはディセーブルにするタスクを表します。
- **enable Error** は、タスクのトレース設定を **error** レベルに設定します。
- **enable Special** は、タスクのトレース設定を **special** レベルに設定します。
- **enable State_Transition** は、タスクのトレース設定を **state transition** レベルに設定します。
- **enable Significant** は、タスクのトレース設定を **significant** レベルに設定します。
- **enable Entry_exit** は、タスクのトレース設定を **entry_exit** レベルに設定します。
- **enable Arbitrary** は、タスクのトレース設定を **arbitrary** レベルに設定します。
- **enable Detailed** は、タスクのトレース設定を **detailed** レベルに設定します。
- **disable** は、タスクのトレース設定を解除します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

set web-security

このコマンドは、オペレーティング システムに Web セキュリティ証明書情報を設定します。

コマンド構文

```
set web-security orgunit orgname locality state [country alternatehostname]
```

パラメータ

- *orgunit* は、組織ユニット (OU) 名を表します。



ヒント このコマンドを使用すると、複数の組織ユニットを入力できます。複数の組織ユニット名を入力するには、エントリをカンマで区切ります。カンマを含むエントリは、エントリ内のカンマの前に円記号を入力します。組織ユニットに対して複数の値を入力するには、このコマンドの例で示すように値を引用符で囲みます。

- *orgname* は、組織名を表します。
- *locality* は、組織の場所を表します。
- *state* は、組織の州を表します。
- *country* (オプション) は、組織の国を表します。
- *alternatehostname* (オプション) は、Web サーバ (Tomcat) 証明書を生成するときに使用される、ホストの代替名を指定します。



(注) `set web-security` コマンドで `alternate-host-name` パラメータを設定すると、`tomcat` の自己署名証明書には、`alternate-host-name` が指定された Subject Alternate Name 拡張が含まれます。Cisco Unified Communications Manager の CSR には、CSR に代替ホスト名が指定された Subject Alternate Name Extension が含まれます。

使用上のガイドライン

Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unity Connection が VMware 上にインストールされている場合、`set web-security` コマンドを実行すると、ライセンス MAC の計算値が変更され、Cisco Unified CM または Connection ライセンスが無効になります。

Cisco Unified CM ライセンスの置き換えの詳細は、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/install/8_0_2/install/cmins802.html#wp524389 にアクセスし、『Installing Cisco Unified Communications Manager Release 8.0(2)』の「Obtaining Rehosted Licenses When You Change License MAC Parameters」を参照してください。

Connection ライセンスの置き換えについては、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html にアクセスし、『System Administration Guide for Cisco Unity Connection』の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection」を参照してください。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

例

この例では、カンマを含む複数の組織ユニット名を指定する **web-security** コマンドを示します。

```
set web-security "accounting,personnel¥,CA,personnel¥,MA" Cisco Milpitas CA
```

上の例の証明書には、次の 3 つの OU フィールドがあります。

- OU=accounting
- OU=personnel, CA
- OU=personnel, MA

set workingdir

このコマンドは、アクティブ、非アクティブ、およびインストールの各ログの作業ディレクトリを設定します。

コマンド構文**set workingdir**

activelog *directory*

inactivelog *directory*

tftp *directory*

パラメータ

- **activelog** は、アクティブ ログの作業ディレクトリを設定します。
- **inactivelog** 非アクティブ ログの作業ディレクトリを設定します。
- **tftp** は、TFTP ファイルの作業ディレクトリを設定します。
- *directory* は、現在の作業ディレクトリを表します。

要件

コマンド特権レベル：ログの場合は 0、TFTP の場合は 1

アップグレード時の使用：可能

Show コマンド

このセクションでは、以下のコマンドについて説明します。

- 「show account」 (P.50)
- 「show cert」 (P.51)
- 「show cli pagination」 (P.51)
- 「show ctl」 (P.52)
- 「show cuc cluster status (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.52)
- 「show cuc config groups (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.52)
- 「show cuc config settings (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.53)
- 「show cuc dbconsistency (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.54)
- 「show cuc dbcontents (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.55)
- 「show cuc dbschema (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.55)
- 「show cuc dbserver disk (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.56)
- 「show cuc dbserver session (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.57)
- 「show cuc dbserver sessions all (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.58)
- 「show cuc dbserver sessions list (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.59)
- 「show cuc dbserver user list (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.59)
- 「show cuc dbserver user waiting (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.60)
- 「show cuc dbtable contents (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.61)
- 「show cuc dbtable list (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.61)
- 「show cuc dbtable schema (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.62)
- 「show cuc dbview contents (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.63)
- 「show cuc dbview list (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.64)
- 「show cuc dbview schema (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.65)
- 「show cuc locales (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.66)
- 「show cuc sysagent task list (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.66)
- 「show cuc sysagent task results (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.67)
- 「show cuc sysinfo (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.68)
- 「show cuc tech dbschemaversion (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.69)
- 「show cuc tech dbserver all (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.69)
- 「show cuc tech dbserver integrity (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.70)
- 「show cuc tech dbserver log diagnostic (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.70)
- 「show cuc tech dbserver log message (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.71)
- 「show cuc tech dbserver status (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.72)
- 「show cuc trace levels (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.72)
- 「show cuc version (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.73)
- 「show diskusage」 (P.73)

- 「show environment」 (P.74)
- 「show hardware」 (P.75)
- 「show itl」 (P.75)
- 「show ipsec policy_group」 (P.75)
- 「show ipsec policy_name」 (P.76)
- 「show logins」 (P.76)
- 「show media streams」 (P.76)
- 「show memory」 (P.77)
- 「show myself」 (P.78)
- 「show network」 (P.78)
- 「show network ipprefs」 (P.79)
- 「show network ipv6」 (P.80)
- 「show open」 (P.80)
- 「show packages」 (P.81)
- 「show password age」 (P.81)
- 「show password inactivity」 (P.82)
- 「show perf counterhelp」 (P.82)
- 「show perf counterhelp」 (P.82)
- 「show perf list categories」 (P.82)
- 「show perf list classes」 (P.83)
- 「show perf list counters」 (P.83)
- 「show perf list instances」 (P.83)
- 「show perf query class」 (P.84)
- 「show perf query counter」 (P.84)
- 「show perf query instance」 (P.85)
- 「show perf query path」 (P.85)
- 「show process」 (P.86)
- 「show registry」 (P.87)
- 「show risdb」 (P.88)
- 「show smtp」 (P.88)
- 「show stats io」 (P.89)
- 「show status」 (P.89)
- 「show tech activesql」 (P.90)
- 「show tech all」 (P.90)
- 「show tech ccm_service」 (P.90)
- 「show tech database」 (P.91)
- 「show tech dberrcode」 (P.91)
- 「show tech dbintegrity」 (P.91)

- 「show tech dbinuse」 (P.92)
- 「show tech dbschema」 (P.92)
- 「show tech dbstateinfo」 (P.92)
- 「show tech devdefaults」 (P.92)
- 「show tech dumpCSVandXML」 (P.93)
- 「show tech gateway」 (P.93)
- 「show tech locales」 (P.93)
- 「show tech network」 (P.94)
- 「show tech notify」 (P.94)
- 「show tech params all」 (P.95)
- 「show tech params enterprise」 (P.95)
- 「show tech params service」 (P.95)
- 「show tech prefs」 (P.95)
- 「show tech procedures」 (P.96)
- 「show tech repltimeout」 (P.96)
- 「show tech routepatterns」 (P.96)
- 「show tech routeplan」 (P.97)
- 「show tech runtime」 (P.97)
- 「show tech systables」 (P.98)
- 「show tech system」 (P.98)
- 「show tech table」 (P.99)
- 「show tech triggers」 (P.99)
- 「show tech version」 (P.99)
- 「show timezone」 (P.100)
- 「show trace」 (P.100)
- 「show ups status」 (P.102)
- 「show version」 (P.102)
- 「show web-security」 (P.102)
- 「show workingdir」 (P.102)

show account

このコマンドは、マスター管理者アカウント以外の現在の管理者アカウントをリスト表示します。

コマンド構文

show account

要件

コマンド特権レベル：4

アップグレード時の使用：可能

show cert

このコマンドは、証明書の内容および証明書信頼リストを表示します。

コマンド構文

show cert

own *filename*
trust *filename*
list {**own** | **trust**}

パラメータ

- *filename* は、証明書ファイルの名前を表します。
- **own** は、所有している証明書を指定します。
- **trust** は、信頼済みの証明書を指定します。
- **list** は、証明書信頼リストを指定します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

このコマンドは、所有している証明書信頼リストを表示します。

```
show cert list own
```

show cli pagination

このコマンドは、CLI 自動改ページのステータスを表示します。

コマンド構文

show cli pagination

パラメータ

なし

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

例

```
admin: show cli pagination  
Automatic Pagination : Off.
```

show ctl

このコマンドは、サーバ上の Certificate Trust List (CTL) ファイルの内容を表示します。CTL が有効でない場合は、そのことが通知されます。

コマンド構文

```
show ctl
```

show cuc cluster status (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、クラスタ内のサーバのステータスを表示します。

コマンド構文

```
show cuc cluster status
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
show cuc cluster status
```

Server Name	Member ID	Server State	Internal State	Reason
cuc-server-1	0	Primary	Pri Active	Normal
cuc-server-2	1	Secondary	Sec Active	Normal

show cuc config groups (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、有効な設定グループ名のリストを表示します。

コマンド構文

```
show cuc config groups [page]
```

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

使用上のガイドライン

指定されたグループの設定のリストを確認するには、[show cuc config settings \(Cisco Unity Connection のみ\)](#) コマンドを実行します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
show cuc config groups

CiscoLicensing
ConfigurationAssistant
Conversations
Directory
Groupware
LogMgr
Messaging
:
:
Telephony
```

show cuc config settings (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、指定された Connection 設定グループの設定および値を表示します。

コマンド構文

```
show cuc config settings group_name [page]
```

パラメータ

- *group_name* は、設定を表示する設定グループの名前を指定します。
有効なグループ名のリストを表示するには、[show cuc config groups \(Cisco Unity Connection のみ\)](#) コマンドを実行します。グループ名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

次の例では、SA というグループの設定が表示されます。

```
show cuc config settings SA

SA Setting          Value
-----
SessionTimeout     20
Use24HrClockFormat 0
```

show cuc dbconsistency (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、指定されたデータベースのテーブルおよびインデックスに整合性の問題がないか確認します。

コマンド構文

```
show cuc dbconsistency database_name
```

パラメータ

- *database_name* は、チェックするデータベースの名前を指定します。データベース名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。Connection のデータベースには、以下が含まれています。
 - **unitydirdb** : ディレクトリと設定データを含みます。
 - **unitydyndb** : Connection が内部的に使用する動的なデータを含みます。
 - **unitymbxdb1** から **unitymbxdb5** : 対応するメールボックス ストア内の現在の音声メッセージに関するデータを含みます。これには、ファイル システム内に格納されている音声ファイルへのポインタも含まれます。構成済みのメールボックス ストアが 1 つだけの場合、メールボックス ストア データベースの名前は常に **unitymbxdb1** になります。
 - **unityrptdb** : 音声ログ データを含みます。

使用上のガイドライン

コマンドが完了すると、詳細情報がログ ファイルに保存され、結果の要約が、ログ ファイルの場所も含めて表示されます。ファイルの内容を表示するには、**file** コマンドを使用してください。



注意

データベースの整合性をチェックすると、システムのパフォーマンスに大きく影響します。このコマンドは、システムのアクティブがないか、ごく少ないときにのみ実行してください。動作が始まると、キャンセルすることはできません。動作中はサーバを再起動しないでください。動作が正常に終了するまで、Connection は適切に機能しません。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

次の例では、unityrptdb データベースの整合性がチェックされます。

```
show cuc dbconsistency unityrptdb
```

```
Checking consistency of unityrptdb tables. Please wait.
```

```
Consistency check of unityrptdb tables successful.
```

```
Validation of unityrptdb indexes successful.
```

```
Output is in file: cuc/cli/consistency_unityrptdb_070404-123636.txt
```

show cuc dbcontents (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、指定されたデータベースから CSV ファイルにデータをエクスポートします。

コマンド構文

```
show cuc dbcontents database_name
```

パラメータ

- *database_name* は、CSV ファイルにデータをエクスポートするデータベースの名前を指定します。データベース名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。Connection のデータベースには、以下が含まれています。
 - **unitydirdb** : ディレクトリと設定データを含みます。
 - **unitydyndb** : Connection が内部的に使用する動的なデータを含みます。
 - **unitymbxdb1** から **unitymbxdb5** : 対応するメールボックスストア内の現在の音声メッセージに関するデータを含みます。これには、ファイルシステム内に格納されている音声ファイルへのポインタも含まれます。構成済みのメールボックスストアが 1 つだけの場合、メールボックスストア データベースの名前は常に **unitymbxdb1** になります。
 - **unityrptdb** : 音声ログ データを含みます。

使用上のガイドライン

コマンドが完了すると、CSV ファイルの場所が表示されます。ファイルの内容を表示するには、**file** コマンドを使用してください。



注意

データベースの内容を CSV ファイルに保存することは、システムのパフォーマンスに影響します。このコマンドは、システムのアクティブがないか、ごく少ないときのみ実行してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

次の例では、unitydirdb データベースから CSV ファイルにデータをエクスポートし、ファイルの場所を表示します。

```
show cuc dbcontents unitydirdb
```

```
This operation may take a few minutes to complete. Please wait.
```

```
Output is in file: cuc/cli/contents_unitydirdb_070404-124027.csv
```

show cuc dbschema (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、指定されたデータベースのスキーマを複製するために必要な SQL ステートメントをファイルにエクスポートします。

コマンド構文

```
show cuc dbschema database_name
```

パラメータ

- *database_name* は、スキーマをエクスポートするデータベースの名前を指定します。データベース名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。Connection のデータベースには、以下が含まれています。
 - **unitydirdb** : ディレクトリと設定データを含みます。
 - **unitydyndb** : Connection が内部的に使用する動的なデータを含みます。
 - **unitymbxdb1** から **unitymbxdb5** : 対応するメールボックス ストア内の現在の音声メッセージに関するデータを含みます。これには、ファイル システム内に格納されている音声ファイルへのポインタも含まれます。構成済みのメールボックス ストアが 1 つだけの場合、メールボックス ストア データベースの名前は常に **unitymbxdb1** になります。
 - **unityrptdb** : 音声ログ データを含みます。

使用上のガイドライン

コマンドが完了すると、ファイルの場所が表示されます。ファイルを表示するには、**file** コマンドを使用してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

次の例では、unitydirdb データベースのスキーマをファイルにエクスポートし、ファイルの場所を表示します。

```
show cuc dbschema unitydirdb
```

```
Output is in file: cuc/cli/schema_unitydirdb_061013-115815.sql
```

show cuc dbserver disk (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、現在のサーバ上のすべての Connection データベースについて、Informix 記憶域に関する要約情報を表示します。

コマンド構文

```
show cuc dbserver disk [page | file]
```

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。
- **file** : 出力をファイルに保存します。このオプションを指定すると、要約にはファイルの場所が含まれます。**file** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
show cuc dbserver disk
```

```
Dbspaces
```

```
=====
```

DbSpace Number	DbSpace Name	Size MB	Used MB	Free MB	Percent Free
1	rootdbs	300.0	107.3	192.7	64
2	ciscounity_sbspace	20.0	19.0	1.0	5

```
Chunks
```

```
=====
```

Chunk	Offset	Size MB	Free MB	Path
1	0	300.0	192.7	/var/opt/cisco/connection/db/root_dbospace
2	250	20.0	1.0	/usr/local/cm/db/informix/databases/ciscounity_sbspace

show cuc dbserver session (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、指定された Informix データベース ユーザ セッションに関する要約情報を表示します。

コマンド構文

```
show cuc dbserver session session_id [page | file]
```

パラメータ

- session_id* は、要約情報を表示するデータベース ユーザ セッションを指定します。現在のセッションのリストを取得するには、[show cuc dbserver sessions list \(Cisco Unity Connection のみ\)](#) コマンドまたは [show cuc dbserver user list \(Cisco Unity Connection のみ\)](#) コマンドを使用します。

オプション

- page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。
- file** : 出力をファイルに保存します。このオプションを指定すると、要約にはファイルの場所が含まれます。**file** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

次の例では、データベース ユーザ セッション 63 に関する要約情報が表示されます。

```
show cuc dbserver session 63
```

```
IBM Informix Dynamic Server Version 10.00.UC4W3 -- On-Line -- Up 5 days 20:38:40 --
255716 Kbytes
```

session id	user	tty	pid	hostname	#RSAM threads	total memory	used memory	dynamic explain
63								

```

63      dbuser  -          11488    smilliga 1          184320    143808    off

tid     name      rstcb   flags    curstk   status
108     sqlxec   4bedd2b0 Y--P--- 4064     cond wait(netnorm)

Memory pools      count 1
name      class addr      totalsize freesize #allocfrag #freefrag
63        V      4e774020 180224   38064    134      30

name      free      used      name      free      used
sql       0         40       rdahead   0         448

Sess  SQL          Current      Iso Lock      SQL  ISAM F.E.
Id    Stmt type      Database     Lvl Mode      ERR  ERR  Vers Explain
63    -          ccm0500v0000 CR  Wait 30    0   0   9.03 Off

Last parsed SQL statement :
select paramvalue from processconfig where
paramName='RisCleanupTimeOfDay'
```

show cuc dbserver sessions all (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、現在のすべての Informix データベース ユーザ セッションに関する要約情報を表示します。

コマンド構文

show cuc dbserver sessions all [page | file]

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。page では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。
- **file** : 出力をファイルに保存します。このオプションを指定すると、要約にはファイルの場所が含まれます。file では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
show cuc dbserver sessions all
```

```
IBM Informix Dynamic Server Version 10.00.UC4W3 -- On-Line -- Up 5 days 20:38:40 --
255716 Kbytes
```

```

session
id     user      tty      pid      hostname #RSAM   total    used      dynamic
63     dbuser   -        11488    smilliga 1       184320   143808   off

tid     name      rstcb   flags    curstk   status
108     sqlxec   4bedd2b0 Y--P--- 4064     cond wait(netnorm)

Memory pools      count 1
name      class addr      totalsize freesize #allocfrag #freefrag
63        V      4e774020 180224   38064    134      30
```

```

name          free      used      name          free      used
opentable     0         3256     filetable     0         704

Sess SQL          Current    Iso Lock      SQL  ISAM F.E.
Id   Stmt type      Database    Lvl Mode      ERR  ERR  Vers Explain
63   -              ccm0500v0000 CR Wait 30    0   0   9.03 Off

```

```

Last parsed SQL statement :
select paramvalue from processconfig where
paramName='RisCleanupTimeOfDay'

```

show cuc dbserver sessions list (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、現在の Informix データベース ユーザ セッションのリストを表示します。

コマンド構文

```
show cuc dbserver sessions list [page]
```

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

使用上のガイドライン

内部データベース ユーザの名前は、一般的に Connection コンポーネントの名前に対応しています。このコマンドは、[show cuc dbserver session \(Cisco Unity Connection のみ\)](#) コマンドを実行する前に、必要なセッション ID を取得するために実行します。

結果はセッション ID でソートされます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
show cuc dbserver sessions list
```

```

Session Database      User                      PID
-----
14         unitydirdb    tomcat                    4707
4986      unitydirdb    cudbeventpublisher      5818

```

show cuc dbserver user list (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、アクティブな Connection 内部データベース ユーザのリストを表示します。

コマンド構文

```
show cuc dbserver user list [page]
```

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

使用上のガイドライン

内部データベース ユーザの名前は、一般的に Connection コンポーネントの名前に対応しています。結果は、最初にデータベース、次にユーザによってソートされます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
show cuc dbserver user list
```

Database	User	Session	PID
unitydirdb	tomcat	18	4707
unitydirdb	cunotifier	5064	8690
unitydirdb	cumta	5028	8504
unitydirdb	cumixer	5018	8190
unitydirdb	cuscavenger	5114	8943

show cuc dbserver user waiting (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、リソースを求めて待機中の Connection 内部ユーザがある場合、そのリストを表示します。

コマンド構文

```
show cuc dbserver user waiting [page]
```

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

使用上のガイドライン

内部データベース ユーザの名前は、一般的に Connection コンポーネントの名前に対応しています。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
show cuc dbserver user waiting
```

User Name	Session ID	Waiting On					
		Latch	Lock	Buffer	Chkpt	Trans	In Crit
cucsmgr	5403	N	N	N	N	N	N
cudbeventpublisher	4989	N	N	N	N	N	N

```
cugalsvc          5097      N      N      N      N      N      N
```

show cuc dbtable contents (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、指定された Connection テーブルの内容を CSV ファイルにエクスポートします。

コマンド構文

```
show cuc dbtable contents database_name table_name
```

パラメータ

- *database_name* は、CSV ファイルに内容をエクスポートするテーブルを含むデータベースを指定します。データベース名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。Connection のデータベースには、以下が含まれています。
 - **unitydirdb** : ディレクトリと設定データを含みます。
 - **unitydyndb** : Connection が内部的に使用する動的なデータを含みます。
 - **unitymbxdb1** から **unitymbxdb5** : 対応するメールボックスストア内の現在の音声メッセージに関するデータを含みます。これには、ファイルシステム内に格納されている音声ファイルへのポインタも含まれます。構成済みのメールボックスストアが 1 つだけの場合、メールボックスストア データベースの名前は常に **unitymbxdb1** になります。
 - **unityrptdb** : 音声ログ データを含みます。
- *table_name* は、CSV ファイルに内容をエクスポートするテーブルを指定します。指定されたデータベース内に存在するテーブルのリストを表示するには、**show cuc dbtable list (Cisco Unity Connection のみ)** コマンドを使用します。テーブル名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

使用上のガイドライン

コマンドが完了すると、CSV ファイルの場所が表示されます。ファイルの内容を表示するには、**file** コマンドを使用してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
show cuc dbtable contents unitydirdb tbl_cos
```

```
Output is in file: cuc/cli/contents_tbl_cos_1013-113910.csv
```

show cuc dbtable list (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、指定されたデータベース内に存在するテーブルのリストを表示します。

コマンド構文

```
show cuc dbtable list database_name [page]
```

パラメータ

- *database_name* は、テーブルのリストを表示するデータベースを指定します。データベース名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。Connection のデータベースには、以下が含まれています。
 - **unitydirdb** : ディレクトリと設定データを含みます。
 - **unitydyndb** : Connection が内部的に使用する動的なデータを含みます。
 - **unitymbxdb1** から **unitymbxdb5** : 対応するメールボックス ストア内の現在の音声メッセージに関するデータを含みます。これには、ファイル システム内に格納されている音声ファイルへのポインタも含まれます。構成済みのメールボックス ストアが 1 つだけの場合、メールボックス ストア データベースの名前は常に **unitymbxdb1** になります。
 - **unityrptdb** : 音声ログ データを含みます。

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
show cuc dbtable list unitydirdb
```

```
tbl_accountlogonpolicy
tbl_agency
tbl_agencyextensionrange
tbl_alias
tbl_alternatename
tbl_broadcastmessage
tbl_broadcastmessagerecipient
...
tbl_waveformat
```

show cuc dbtable schema (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、指定されたテーブルの説明、およびテーブル内のカラムのリストを表示します。

コマンド構文

```
show cuc dbtable schema database_name table_name [page]
```

パラメータ

- *database_name* は、スキーマを表示するテーブルを含むデータベースを指定します。データベース名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。Connection のデータベースには、以下が含まれています。
 - **unitydirdb** : ディレクトリと設定データを含みます。
 - **unitydyndb** : Connection が内部的に使用する動的なデータを含みます。

- **unitymbxdb1** から **unitymbxdb5** : 対応するメールボックス ストア内の現在の音声メッセージに関するデータを含みます。これには、ファイル システム内に格納されている音声ファイルへのポインタも含まれます。構成済みのメールボックス ストアが 1 つだけの場合、メールボックス ストア データベースの名前は常に **unitymbxdb1** になります。
- **unityrptdb** : 音声ログ データを含みます。
- **table_name** は、スキーマを表示するテーブルを指定します。
指定されたデータベース内に存在するテーブルのリストを表示するには、**show cuc dbtable list (Cisco Unity Connection のみ)** コマンドを使用します。テーブル名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

次の例では、unitydirdb データベースの tbl_user テーブルのスキーマが表示されます。

```
show cuc dbtable schema unitydirdb tbl_cos
```

```
A collection of service privileges for subscribers that control access to
features and use of the system into classes. Class Of Service objects
determine which features a subscriber is licensed to use, the maximum length
of their greetings and messages, what numbers they are allowed to dial, and
what options are available to the subscriber among other things.
```

```
Columns:
displayname
movetodeletefolder
accessunifiedclient
...
accesslivereply
```

show cuc dbview contents (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、指定された SQL ビューからの結果を CSV ファイルに保存します。

コマンド構文

```
show cuc dbview contents database_name view_name
```

パラメータ

- **database_name** は、ファイルに結果を保存するビューを含むデータベースを指定します。データベース名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。Connection のデータベースには、以下が含まれています。
 - **unitydirdb** : ディレクトリと設定データを含みます。
 - **unitydyndb** : Connection が内部的に使用する動的なデータを含みます。

- **unitymbxdb1** から **unitymbxdb5** : 対応するメールボックス ストア内の現在の音声メッセージに関するデータを含みます。これには、ファイル システム内に格納されている音声ファイルへのポインタも含まれます。構成済みのメールボックス ストアが 1 つだけの場合、メールボックス ストア データベースの名前は常に **unitymbxdb1** になります。
- **unityrptdb** : 音声ログ データを含みます。
- **view_name** は、ファイルに結果を保存するビューを指定します。
指定されたデータベース内に存在するビューのリストを表示するには、**show cuc dbview list (Cisco Unity Connection のみ)** コマンドを使用します。ビュー名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

使用上のガイドライン

コマンドが完了すると、CSV ファイルの場所が表示されます。ファイルの内容を表示するには、**file** コマンドを使用してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

次の例では、**unitydirdb** データベースの **vw_cos** ビューからの結果を CSV ファイルに保存しています。

```
show cuc dbview contents unitydirdb vw_cos
```

Output is in file: cuc/cli/contents_vw_cos_061013-113910.csv

show cuc dbview list (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、指定されたデータベース内に存在するビューのリストを表示します。

コマンド構文

```
show cuc dbview list database_name [page]
```

パラメータ

- **database_name** は、ビューのリストを表示するデータベースを指定します。データベース名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。**Connection** のデータベースには、以下が含まれています。
 - **unitydirdb** : ディレクトリと設定データを含みます。
 - **unitydyndb** : **Connection** が内部的に使用する動的なデータを含みます。
 - **unitymbxdb1** から **unitymbxdb5** : 対応するメールボックス ストア内の現在の音声メッセージに関するデータを含みます。これには、ファイル システム内に格納されている音声ファイルへのポインタも含まれます。構成済みのメールボックス ストアが 1 つだけの場合、メールボックス ストア データベースの名前は常に **unitymbxdb1** になります。
 - **unityrptdb** : 音声ログ データを含みます。

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

次の例では、unitydirdb データベース内のビューのリストが表示されます。

```
show cuc dbview list unitydirdb
```

```
vw_agency
vw_agencyextensionrange
vw_alias
vw_alternatename
vw_broadcastmessage
vw_broadcastmessagerecipient
vw_callaction
...
vw_waveformat
```

show cuc dbview schema (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、指定されたビューのスキーマを表示します。

コマンド構文

```
show cuc dbview schema database_name view_name [page]
```

パラメータ

- *database_name* は、スキーマを表示するビューを含むデータベースを指定します。データベース名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。Connection のデータベースには、以下が含まれています。
 - **unitydirdb** : ディレクトリと設定データを含みます。
 - **unitydyndb** : Connection が内部的に使用する動的なデータを含みます。
 - **unitymbxdb1** から **unitymbxdb5** : 対応するメールボックス ストア内の現在の音声メッセージに関するデータを含みます。これには、ファイル システム内に格納されている音声ファイルへのポインタも含まれます。構成済みのメールボックス ストアが 1 つだけの場合、メールボックス ストア データベースの名前は常に **unitymbxdb1** になります。
 - **unityrptdb** : 音声ログ データを含みます。
- *view_name* は、スキーマを表示するビューを指定します。
指定されたデータベース内に存在するビューのリストを表示するには、**show cuc dbview list (Cisco Unity Connection のみ)** コマンドを使用します。ビュー名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

次の例では、unitydirdb データベースの vw_user ビューのスキーマが表示されます。

```
show cuc dbview schema unitydirdb vw_cos
```

```
A simple view for tbl_Cos.
```

```
Columns:
objectid
accessfaxmail
accessstts
callholdavailable
callscreenavailable
canrecordname
...
requiresecuremessages
```

show cuc locales (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、現在インストールされているロケールのリストを表示します。

コマンド構文

```
show cuc locales
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

```
show cuc locales
```

```
Installed Locale Package  Locale
-----
uc-locale-en_GB-6.0.0.0-0  en-GB
uc-locale-fr_CA-6.0.0.0-0  fr-CA
```

show cuc sysagent task list (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、Sysagent タスクのリストを表示します。

コマンド構文

```
show cuc sysagent task list [page]
```

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。 **page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

使用上のガイドライン

sysagent タスクを実行するには、**run cuc sysagent task (Cisco Unity Connection のみ)** コマンドを使用します。指定されたタスクの Is Singleton カラムの値が Y である場合、そのタスクは複数サーバクラスタのプライマリ サーバでのみ実行可能です。このサーバがスタンドアロンの場合は、すべてのタスクがこのサーバで実行されます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
show cuc sysagent task list
```

Task Name	Is Singleton
BroadcastMessagePurge	N
CallManagerSubscriberTemplateSynchTask	Y
CallManagerUserSynchTask	Y
CleanDeletedMessagesTask	Y
CleanDirectoryStreamFilesTask	N
CleanOrphanAttachmentFilesTask	Y
...	
UpdateDatabaseStats	N

show cuc sysagent task results (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、指定されたタスクが開始した時刻と終了した時刻を、新しいものから順番に表示します。

コマンド構文

```
show cuc sysagent task results task_name [page]
```

パラメータ

- *task_name* は、タスクがいつ開始および終了したかの情報を表示するタスクを指定します。
タスク名のリストを表示するには、**show cuc sysagent task list (Cisco Unity Connection のみ)** コマンドを実行します。タスク名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。 **page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

使用上のガイドライン

Sysagent タスクを実行するには、**run cuc sysagent task (Cisco Unity Connection のみ)** コマンドを使用します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

次の例では、Sysagent タスクの CleanDeletedMessages が開始および終了した時刻が表示されます。

```
show cuc sysagent task results CleanDeletedMessagesTask
```

Time Started	Time Completed
-----	-----
2006-10-25 17:31:45.689	2006-10-25 17:31:45.785
2006-10-25 17:16:45.702	2006-10-25 17:16:45.742
2006-10-25 17:01:45.690	2006-10-25 17:01:45.730

show cuc sysinfo (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、現在の Connection サーバのハードウェアおよびソフトウェア システム情報の概要を表示します。具体的には、アクティブなパーティションおよび非アクティブなパーティションにインストールされているバージョン、クラスタが設定されているかどうか、QoS 設定、ハードウェア仕様、アクティブなパーティション、非アクティブなパーティション、および共通パーティションのディスクの使用済み容量と空き容量、ライセンス情報などです。

コマンド構文

```
show cuc sysinfo
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

例

```
Gather Date/Time : Wed Oct 21 09:45:29 PDT 2009
Connection Install Information:

Host Name : connection1

Version:
  Active Version : 8.0.0.98000-210

  Inactive Version : 8.0.0.98000-201

High Availability (this server is) : Pri_Single_Server

Publisher : connection1.cisco.com - 10.10.10.10

Subscriber(s) : None

QOS Settings :
  Call Signaling DSCP : CS3
  Media Signaling DSCP : EF
```

```

Hardware :
  HW Platform      : 7825I3
  Processors       : 1
  Type             : Family: Core 2
  CPU Speed        : 2130
  Memory           : 2048
  Object Id        : 1.3.6.1.4.1.9.1.746
  OS Version       : UCOS 4.0.0.0-31
  ...

```

show cuc tech dbschemaversion (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、各データベースのスキーマ バージョン情報を表示します。

コマンド構文

```
show cuc tech dbschemaversion [page]
```

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```

show cuc tech dbschemaversion

unitydirdb
=====
Schema Version  Product Version  Date
-----
1.2.363         2.1                2007-02-13 19:10:50.0

```

show cuc tech dbserver all (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、すべての show cuc tech コマンドを順番に実行し、結果をテキスト ファイルに保存します。

コマンド構文

```
show cuc tech dbserver all
```

使用上のガイドライン

コマンドが完了すると、詳細情報がテキスト ファイルに保存され、そのテキスト ファイルの場所が表示されます。ファイルの内容を表示するには、**file** コマンドを使用してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
show cuc tech dbserver all
```

```
Output is in file: cuc/cli/dbserverall_061013-111801.txt
```

show cuc tech dbserver integrity (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、Informix データベース サーバの記憶域構造の完全性を確認します。

コマンド構文

```
show cuc tech dbserver integrity
```

使用上のガイドライン

コマンドが完了すると、詳細情報がテキスト ファイルに保存され、結果の要約が、ログ ファイルの場所も含めて表示されます。ファイルの内容を表示するには、**file** コマンドを使用してください。

出力ファイルには次のような警告が示されますが、無視してください。

```
WARNING: No sysstable records found
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

```
show cuc tech dbserver integrity
```

```
Database system catalog tables were successfully validated.
```

```
Database disk extents were successfully validated.
```

```
Database reserved pages were successfully validated.
```

```
Output is in file: cuc/cli/integrity_061013-95853.txt
```

show cuc tech dbserver log diagnostic (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、Informix の assertion-failure ログおよび shared-memory-dump ログが存在しているかどうかを確認します。

コマンド構文

```
show cuc tech dbserver log diagnostic
```

使用上のガイドライン

ログが存在している場合は、その場所が表示されます。ファイルの内容を表示するには、**file** コマンドを使用してください。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

```
show cuc tech dbserver log diagnostic
```

The following Informix logs are available for the UC database server:

```
core/af.3599c
core/af.36858
```

show cuc tech dbserver log message (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、Informix メッセージ ログの最後の *n* 行を表示します。

コマンド構文

```
show cuc tech dbserver log message [lines] [page]
```

パラメータ

- *lines* は、Informix メッセージ ログの末尾から何行が表示されるかを指定します。*lines* パラメータを指定しない場合、ログの最後の 20 行が表示されます。

オプション

- **page**：出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

```
show cuc tech dbserver log message
```

```
Message Log File: online.ciscounity.log
```

```
18:09:01 Fuzzy Checkpoint Completed: duration was 0 seconds, 6 buffers not flushed.
18:09:01 Checkpoint loguniq 57, logpos 0x208418, timestamp: 0x33b807
```

```
18:09:01 Maximum server connections 159
18:14:01 Fuzzy Checkpoint Completed: duration was 0 seconds, 6 buffers not flushed.
18:14:01 Checkpoint loguniq 57, logpos 0x20a57c, timestamp: 0x33b9fc
```

show cuc tech dbserver status (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、データベース サーバ インスタンスの詳細なステータス レポートをファイルに保存します。

コマンド構文

```
show cuc tech dbserver status
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

```
show cuc tech dbserver status
```

Output is in file: cuc/cli/status_061013-95031.txt

show cuc trace levels (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、すべての診断トレースのリストと、現在イネーブルになっているトレース レベルを表示します。

コマンド構文

```
show cuc trace levels [page]
```

オプション

- **page**：出力を一度に 1 ページずつ表示します。**page** では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

使用上のガイドライン

指定されたトレースおよびトレース レベルをイネーブルまたはディセーブルにするには、[set cuc trace \(Cisco Unity Connection のみ\)](#) コマンドを使用します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

```
show cuc trace levels
```

Trace Name	Levels
Arbiter	-
AudioStore	0
AxlAccess	-
BulkAdministrationTool	0


```

CCL                10,11
CDE                3,14
CDL                11,13,15,17
:
:
VirtualQueue      -

```

show cuc version (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、アクティブなパーティションおよび非アクティブなパーティションに現在インストールされている Cisco Unity Connection のバージョンを表示します。

コマンド構文

```
show cuc version
```

使用上のガイドライン

このコマンドでは、常に、アクティブなパーティション内のバージョンが表示されます。アクティブなパーティションにアップグレードが存在する場合は、非アクティブなパーティション内のバージョンも表示されます。現在の Engineering Special が存在する場合は、それ表示されます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

```
show cuc version
```

```

Active version: 7.0.1.10000-323
Inactive version: 7.0.0.39700-277

```

show diskusage

このコマンドは、サーバのディスクの使用状況情報を表示します。

コマンド構文

```
show diskusage
```

```

activelog {filename filename | directory | sort}
common {filename filename | directory | sort}
inactivelog {filename filename | directory | sort}
install {filename filename | directory | sort}
tftp {filename filename | directory | sort}
tmp {filename filename | directory | sort}

```

パラメータ

- **activelog** は、activelog ディレクトリに関するディスク使用状況情報を表示します。
- **common** は、common ディレクトリに関するディスク使用状況情報を表示します。
- **inactivelog** は、inactivelog ディレクトリに関するディスク使用状況情報を表示します。
- **install** は、install ディレクトリに関するディスク使用状況情報を表示します。
- **tftp** は、TFTP ディレクトリに関するディスク使用状況情報を表示します。
- **tmp** は、TMP ディレクトリに関するディスク使用状況情報を表示します。

オプション

- **filename** *filename* : *filename* で指定されたファイルに出力を保存します。これらのファイルは、**platform/cli** ディレクトリに格納されます。保存されたファイルを表示するには、**file view activelog** コマンドを使用します。
- **directory** : ディレクトリのサイズだけを表示します。
- **sort** : 出力をファイル サイズによってソートします。ファイル サイズは、1024 バイトのブロックの数で表示されます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

show environment

このコマンドは、3 種類のハードウェア コンポーネントについて環境情報を表示します。

コマンド構文

show environment

fans

power-supply

temperatures

オプション

- **fans** : 1 分あたりの回転数 (RPM) によるファンの速度、ファン速度のスレッシュホールド、およびステータスを表示します。
- **power-supply** : 冗長電源を備えたサーバでのみ、電源のステータスを表示します。
- **temperatures** : 温度センサーの温度値、スレッシュホールド、およびステータスを表示します。



(注)

show environment コマンドの出力データは、サーバのモデルが IBM と HP のどちらであるかによって異なります。

show hardware

このコマンドは、プラットフォーム ハードウェアに関する以下の情報を表示します。

コマンド構文

show hardware

使用上のガイドライン

このコマンドは、プラットフォーム ハードウェアに関する以下の情報を表示します。

- プラットフォーム
- シリアル番号
- BIOS のビルド レベル
- BIOS のメーカー
- アクティブなプロセッサ
- RAID コントローラの状態

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

show itl

このコマンドは、ITL ファイルの内容を表示します。ITL ファイルが有効でない場合には、エラーメッセージを出力します。

コマンド構文

show itl

パラメータ

なし

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

show ipsec policy_group

このコマンドは、ノードの ipsec ポリシー グループを表示します。

コマンド構文

show ipsec policy_group

パラメータ

なし

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show ipsec policy_name

このコマンドは、指定されたポリシー グループ内に存在する ipsec ポリシー名のリストを表示します。

コマンド構文**show ipsec policy_name** [*policy_group*]**パラメータ***[policy_group]* (必須) は、ポリシー グループ名を指定します。**要件**

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show logins

このコマンドは、サーバへの最近のログインをリスト表示します。

コマンド構文**show logins** *number***パラメータ***number* は、表示する最近のログインの数を指定します。デフォルトは 20 です。

show media streams

このコマンドは、現在のメディア ストリーム接続に関する情報を取得します。

コマンド構文**show media streams** [*オプション*]**オプション**

- **file fname** : 制限：有効な文字は、英数字 (a-z、A-Z、0-9)、(-) および (_)。デフォルト：mediainfo。
- **count #** : 範囲：1 ~ 1000、デフォルト：2。
- **sleep #** : 範囲：1 ~ 300 秒、デフォルト：5。
- **device** {ALL | ANN | CFB | CRA | MOH | MTP} : デフォルト：device ALL。
- **info** : 追加の情報を表示します。
- **buffers** : バッファの使用状況情報を表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例**admin: show media streams info buffers**

出力される /platform/log/mediainfo.txt ファイルの内容は、次のとおりです。

```
Time: 2008.03.04 11:01:42
I/F Ver=5, #Apps: Free= 7, Alloc= 4, #Conf: Free= 12, #Streams: Free= 40
Buffer Size = 652, Allocated Buffers = 1, Free Buffers = 5147
Buffer Size = 8192, Allocated Buffers = 0, Free Buffers = 450
App ID= 332, Cfg=CFB, Dead App Timer=86400, Active=Yes, Streams: Available= 92 Active=
4
Conf ID = 16777225, Type = Two No Sum, Streams: Tx = 2, Rx = 2, Active = Yes
Rx Stream: PktCnt= 5979, PID=16777653, PktSz=20ms, Payld=uLaw, IP=10.89.80.178:24652,
MCast=N, Mute=N, UsrMd=N, Actv=Y, QdPkts=2, PktOR=0, DtmfPL=0 DiscTimeSlice= 0 DiscPkts= 0
10:59:42
Buffer Size = 652, Used Buffers = 1
Buffer Size = 8192, Used Buffers = 0
Rx Stream: PktCnt= 6179, PID=16777651, PktSz=20ms, Payld=uLaw, IP=10.89.80.178:24650,
MCast=N, Mute=N, UsrMd=N, Actv=Y, QdPkts=0, PktOR=0, DtmfPL=0 DiscTimeSlice= 0 DiscPkts= 0
10:59:38
Buffer Size = 652, Used Buffers = 0
Buffer Size = 8192, Used Buffers = 0
Tx Stream: PktCnt= 5988, PID=16777653, PktSz=20ms, Payld=uLaw,
IP=10.13.5.189:29450(24652), MCast=N, Mute=N, UsrMd=N, Actv=Y, DtmfPL=0, DtmfQ=0 10:59:42
Buffer Size = 652, Used Buffers = 0
Buffer Size = 8192, Used Buffers = 0
Tx Stream: PktCnt= 6193, PID=16777651, PktSz=20ms, Payld=uLaw,
IP=10.13.5.182:28516(24650), MCast=N, Mute=N, UsrMd=N, Actv=Y, DtmfPL=0, DtmfQ=0 10:59:38
Buffer Size = 652, Used Buffers = 0
Buffer Size = 8192, Used Buffers = 0
App ID= 331, Cfg=ANN, Dead App Timer=86400, Active=Yes, Streams: Available= 96 Active=
0
App ID= 330, Cfg=MOH, Dead App Timer=86400, Active=Yes, Streams: Available= 658 Active=
0
App ID= 329, Cfg=MTP, Dead App Timer=86400, Active=Yes, Streams: Available= 96 Active=
0
```

show memory

このコマンドは、内蔵メモリに関する情報を表示します。

コマンド構文**show memory**

count

modules

size

オプション

- **count** : システムのメモリ モジュールの数を表示します。
- **modules** : すべてのメモリ モジュールに関する詳細情報を表示します。

- **size** : 物理メモリの総量を表示します。

パラメータ

なし

show myself

このコマンドは、現在のアカウントに関する情報を表示します。

コマンド構文

```
show myself
```

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

show network

このコマンドは、ネットワーク情報を表示します。

コマンド構文

```
show network
```

```
cluster
```

```
eth0 [detail]
```

```
failover [detail] [page]
```

```
route [detail]
```

```
status [detail] [listen] [process] [all] [nodns] [search stext]
```

```
ip_conntrack
```

```
max_ip_conntrack
```

```
dhcp eth0 status
```

```
all [detail]
```

パラメータ

- **cluster** は、ネットワーク クラスタ内のノードのリストを表示します。
- **eth0** は、イーサネット 0 を指定します。
- **failover** は、ネットワークの耐障害性情報を指定します。
- **route** は、ネットワークのルーティング情報を表示します。
- **status** は、アクティブなインターネット接続を指定します。
- **ip_conntrack** は、ip_conntrack の使用状況情報を表示します。
- **max_ip_conntrack** は、max_ip_conntrack 情報を指定します。
- **dhcp eth0 status** は、DHCP ステータス情報を表示します。
- **all** は、すべての基本ネットワーク情報を表示します。

オプション

- **detail** : 追加情報を表示します。
- **page** : 情報を一度に 1 ページずつ表示します。
- **listen** : 受信ソケットのみを表示します。
- **process** : 各ソケットが属するプロセス ID とプログラム名を表示します。
- **all** : 受信ソケットと非受信ソケットの両方を表示します。
- **nodns** : DNS 情報なしで、数値によるアドレスを表示します。
- **search stext** : 出力内で stext を検索します。

使用上のガイドライン

eth0 パラメータは、イーサネット ポート 0 の設定を、DHCP および DNS の設定とオプションも含めて表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

この例では、アクティブなインターネット接続が表示されます。

```
show network status
```

show network ipprefs

このコマンドは、ファイアウォールの内側で開く、または変換するように要求されているポートのリストを表示します。

コマンド構文

```
ipprefs {all | enabled | public}
```

パラメータ

all は、製品で使用できるすべての着信ポートを表示します。

enabled は、現在開いているすべての着信ポートを表示します。

public は、現在リモート クライアント向けに開いているすべての着信ポートを表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
admin:show network ipprefs public
```

Application	IPProtocol	PortValue	Type	XlatedPort	Status	Description
sshd	tcp	22	public	-	enabled	sftp and ssh access

tomcat	tcp	8443	translated	443	enabled	secure web
access						
tomcat	tcp	8080	translated	80	enabled	web access
clm	udp	8500	public	-	enabled	cluster
manager						
clm	tcp	8500	public	-	enabled	cluster
manager						
ntpd	udp	123	public	-	enabled	network time
sync						
snmpdm	udp	161	public	-	enabled	SNMP
ccm	tcp	2000	public	-	enabled	SCCP-SIG
ctftp	udp	6969	translated	69	enabled	TFTP access
to CUCM TFTP Server						
ctftp	tcp	6970	public	-	enabled	HTTP access
to CUCM TFTP Server						
admin:						

show network ipv6

このコマンドは、IPv6 のネットワーク ルートおよびネットワーク設定を表示します。



(注) IPv6 は、Cisco Unified Communications Manager Business Edition および Cisco Unity Connection ではサポートされていません。

コマンド構文

```
show network ipv6 {route|settings}
```

パラメータ

route は、すべての IPv6 ルートを表示します。

settings は、IPv6 ネットワーク設定を表示します。

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

show open

このコマンドは、システム上の開いているファイルおよびポートを表示します。

コマンド構文

```
show open
```

```
files [all] [process processID] [regexp reg_exp]
```

```
ports [all] [regexp reg_exp]
```

パラメータ

- **files** は、システム上の開いているファイルを表示します。
- **ports** は、システム上の開いているポートを表示します。

オプション

- **all** : 開いているすべてのファイルまたはポートを表示します。
- **process** : 開いているファイルのうち、指定されたプロセスに属するものを表示します。
- **processID** : プロセスを指定します。
- **regexp** : 開いているファイルまたはポートのうち、指定された正規表現に一致するものを表示します。
- **reg_exp** : 正規表現を表示します。

show packages

このコマンドは、インストールされているパッケージの名前およびバージョンを表示します。

コマンド構文

show packages

active name [page]

inactive name [page]

パラメータ

name は、パッケージ名を表します。すべてのアクティブまたは非アクティブなパッケージを表示するには、ワイルドカード文字 * を使用します。

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

show password age

このコマンドは、設定されているパスワードに関する情報を表示します。

コマンド構文

show password

age : 設定されているパスワードの経過時間パラメータに関する情報を表示します。

expiry [minimum-age | maximum-age] : 設定されているパスワードの期限切れパラメータを表示します。

パラメータ

なし

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

show password inactivity

このコマンドは、パスワードの非アクティビティのステータスを表示します。

コマンド構文

show password inactivity

パラメータ

なし

show perf counterhelp

このコマンドは、指定された perfmon カウンタの説明テキストを表示します。

コマンド構文

show perf counterhelp *class-name counter-name*

パラメータ

- *class-name* は、カウンタを含むクラス名を表します。
- *counter-name* は、表示するカウンタを表します。



(注) クラス名またはカウンタ名にスペースが含まれている場合は、その名前を二重引用符で囲みます。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

show perf list categories

このコマンドは、perfmon システム内のすべてのカテゴリをリスト表示します。

コマンド構文

show perf list categories

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

show perf list classes

このコマンドは、perfmon のクラスまたはオブジェクトをリスト表示します。

コマンド構文

show perf list classes [*cat category*] [*detail*]

オプション

- **detail** : 詳細情報を表示します。
- **cat category** : 指定されたカテゴリの perfmon クラスを表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

show perf list counters

このコマンドは、指定された perfmon クラスの perfmon カウンタをリスト表示します。

コマンド構文

list counters *class-name* [*detail*]

パラメータ

class-name は、カウンタのリストを表示する perfmon クラス名を表します。



(注) クラス名またはカウンタ名にスペースが含まれている場合は、その名前を二重引用符で囲みます。

オプション

detail : 詳細情報を表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

show perf list instances

このコマンドは、指定された perfmon クラスの perfmon インスタンスをリスト表示します。

コマンド構文

list instances *class-name* [*detail*]

パラメータ

class-name は、カウンタのリストを表示する perfmon クラス名を表します。



(注) クラス名にスペースが含まれている場合は、その名前を二重引用符で囲みます。

オプション

detail : 詳細情報を表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

show perf query class

このコマンドは、**perfmon** クラスに対してクエリを実行し、すべてのインスタンスと、各インスタンスのカウンタ値を表示します。

コマンド構文

show perf query class *class-name* [*class-name*...]

パラメータ

class-name は、クエリ対象の **perfmon** クラスを指定します。1 回のコマンドで最大 5 つのクラスを指定できます。



(注) クラス名にスペースが含まれている場合は、その名前を二重引用符で囲みます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

show perf query counter

このコマンドは、指定されたカウンタに対してクエリを実行し、すべてのインスタンスのカウンタ値を表示します。

コマンド構文

show perf query counter *class-name* *counter-name* [*counter-name*...]

パラメータ

- *class-name* は、クエリ対象の **perfmon** クラスを指定します。
- *counter-name* は、表示するカウンタを指定します。1 回のコマンドで最大 5 つのカウンタを指定できます。



(注) クラス名またはカウンタ名にスペースが含まれている場合は、その名前を二重引用符で囲みます。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

show perf query instance

このコマンドは、指定されたインスタンスに対してクエリを実行し、そのカウンタ値をすべて表示します。

コマンド構文

```
show perf query instance class-name instance-name [,instance-name...]
```

パラメータ

- *class-name* は、クエリ対象の `perfmon` クラスを指定します。
- *instance-name* は、表示する `perfmon` インスタンスを指定します。1 回のコマンドで最大 5 つのインスタンスを指定できます。



(注) クラス名またはインスタンス名にスペースが含まれている場合は、その名前を二重引用符で囲みます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、シングルトンの `perfmon` クラスには適用できません。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

show perf query path

このコマンドは、指定された `perfmon` パスに対してクエリを実行します。

コマンド構文

```
show perf query path path-spec [,path-spec...]
```

パラメータ

- インスタンス ベースの `perfmon` クラスの場合、*path-spec* には `class-name(instance-name)¥counter-name` を指定します。
 - 非インスタンス ベースの `perfmon` クラス（シングルトン）の場合、*path-spec* には `class-name¥counter-name` を指定します。
- 1 回のコマンドで最大 5 つのパスを指定できます。



(注) パス名にスペースが含まれている場合は、その名前を二重引用符で囲みます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
show perf query path "Cisco Phones(phone-0)¥CallsAttempted",
"Cisco Unified Communications Manager¥T1ChannelsActive"
```

show process

このコマンドは、システムで実行されるプロセスに関する情報を表示します。

構文**show process**

```
list [file filename] [detail]
load [cont] [clear] [noidle] [num number] [thread] [cpu | memory| time] [page]
name process [file filename]
open-fd process-id [, process-id2]
pid pid [file file-name]
search regexp [file filename]
user username [file filename]
using-most cpu [number] [file filename]
using-most memory [number] [file filename]
```

パラメータ

- **list** は、すべてのプロセスのリストおよび各プロセスに関する重要な情報を表示し、プロセス間の親子関係を視覚的に表示します。
- **load** は、システムに対する現在の負荷を表示します。
- **name** は、同じ名前を持つプロセスの詳細を表示し、その間の親子関係を表示します。
- **open-fd** は、プロセス ID をカンマで区切ったリストに対応して、開いているファイル ディスクリプタをリスト表示します。
- **search** は、オペレーティング システム固有のプロセス リストの出力から、正規表現 *regexp* によって指定されたパターンを検索します。
- **user username** は、ユーザ名が同じプロセスの詳細を取得し、親子関係を表示します。
- **using-most cpu** は、CPU への負荷が高いプロセスのリストを表示します。
- **using-most memory** は、メモリを多く使用するプロセスのリストを表示します。

オプション

- **file filename** : *filename* によって指定されたファイルに結果を出力します。
- **detail** : 詳細な出力を表示します。
- **cont** : コマンドを継続的に繰り返します。
- **clear** : 出力を表示する前に画面をクリアします。

- **noidle** : アイドルなプロセス、およびゾンビプロセスを無視します。
- **num number** : *number* によって指定された数のプロセスを表示します。デフォルトのプロセス数は、10 です。すべてのプロセスを表示するには、*number* を **all** に設定します。
- **thread** : スレッドを表示します。
- **[cpu | memory | time]** : 出力を CPU 使用率、メモリ使用率、または使用時間でソートします。デフォルトでは、CPU 使用率でソートされます。
- **page** : 出力をページ単位で表示します。
- **process** : プロセスの名前を指定します。
- **pid** : プロセスのプロセス ID 番号を指定します。
- **regex** : 正規表現を表します。
- **number** : 表示するプロセスの数を指定します。デフォルトは 5 です。
- **username** : (必須) ユーザ名を指定します。
- **vm** : プロセスの仮想メモリを表示します。

show registry

このコマンドは、レジストリの内容を表示します。

コマンド構文

show registry system component [*name*] [**page**]

パラメータ

- *system* は、レジストリのシステム名を表します。
- *component* は、レジストリのコンポーネント名を表します。
- *name* は、表示するパラメータの名前を表します。



(注) すべてのアイテムを表示するには、ワイルドカード文字 * を入力します。

オプション

page : 一度に 1 ページずつ表示します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

この例では、**cm** システムの内容である **dbl/sdi** コンポーネントが表示されます。

```
show registry cm dbl/sdi
```

show risdb

このコマンドは、RIS データベースのテーブル情報を表示します。

コマンド構文

show risdb

`list [file filename]`

`query table1 table2 table3 ... [file filename]`

パラメータ

- **list** は、Realtime Information Service (RIS) データベースでサポートされているテーブルを表示します。
- **query** は、RIS のテーブルの内容を表示します。

オプション

file filename : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションを指定すると、情報が `platform/cli/filename.txt` に保存されます。ファイル名に「.」文字が含まれていないことを確認してください。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

この例では、RIS のデータベース テーブルのリストが表示されます。

```
show risdb list
```

show smtp

このコマンドは、SMTP ホストの名前を表示します。

コマンド構文

show snmp

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

show stats io

このコマンドは、システム I/O の統計情報を表示します。

コマンド構文

```
show stats io [kilo] [detail] [page] [file filename]
```

オプション

- **kilo** : 統計情報をキロバイトで表示します。
- **detail** : システムで使用できる各デバイスについて、詳細な統計情報を表示します。kilo オプションはオーバーライドされます。
- **file filename** : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションを指定すると、情報が `platform/cli/filename.txt` に保存されます。ファイル名に「.」文字が含まれていないことを確認してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

show status

このコマンドは、基本的なプラットフォーム ステータスを表示します。

コマンド構文

```
show status
```

使用上のガイドライン

このコマンドは、以下の基本的なプラットフォーム ステータスを表示します。

- ホスト名
- 日付
- 時間帯
- ロケール
- 製品バージョン
- プラットフォームのバージョン
- CPU 使用率
- メモリおよびディスクの使用状況
- ライセンス MAC

要件

コマンド特権レベル : 0

show tech activesql

このコマンドは、データベースに対するアクティブなクエリを、1 分の間にログから取得できる範囲で表示します。

コマンド構文

show tech activesql

パラメータ

なし

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech all

このコマンドは、すべての **show tech** コマンドの出力を組み合わせて表示します。

コマンド構文

show tech all [page] [file filename]

オプション

- **page**：一度に 1 ページずつ表示します。
- **file filename**：情報をファイルに出力します。



(注) file オプションを指定すると、情報が `platform/cli/filename.txt` に保存されます。ファイル名に「.」文字が含まれていないことを確認してください。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech ccm_service

このコマンドは、システムで実行可能なすべての Cisco Unified Communications Manager サービスに関する情報を表示します。

コマンド構文

show tech ccm_service

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

show tech database

このコマンドは、データベースに関する情報を表示します。

コマンド構文

show tech database

dump

sessions

パラメータ

- **dump** は、データベース全体の CSV ファイルを作成します。
- **sessions** は、現在のセッション ID のセッションおよび SQL 情報をファイルにリダイレクトします。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech dberrcode

指定されたエラー コードに関する情報を（データベース ログ ファイルから）表示します。

コマンド構文

show tech dberrcode [*errorcode*]

パラメータ

- [*errorcode*]（必須）は、エラー コードを正の整数で指定します。

使用上のガイドライン

エラー コードが負の数である場合は、マイナス符号 (-) を付けずに入力します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech dbintegrity

このコマンドは、データベースの完全性を表示します。

コマンド構文

show tech dbintegrity

show tech dbinuse

このコマンドは、使用中のデータベースを表示します。

コマンド構文

```
show tech dbinuse
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech dbschema

このコマンドは、CSV ファイル形式でデータベース スキーマを表示します。

コマンド構文

```
show tech dbschema
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech dbstateinfo

このコマンドは、データベースの状態を表示します。

コマンド構文

```
show tech dbstateinfo
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech devdefaults

このコマンドは、デバイスのデフォルト テーブルを表示します。

コマンド構文

```
show tech devdefaults
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech dumpCSVandXML

このコマンドは、L2 アップグレード条件が成立する場合のカスタマー サポートに関する詳細情報を出力します。

コマンド構文

```
show tech dumpCSVandXML
```

パラメータ

なし

使用上のガイドライン

このファイルは、次の方法のいずれかで取得できます。

1. `file view activelog cm/trace/dbl/xmlcsv.tar` コマンドを使用して、ファイルの内容を表示する。
2. `file get activelog cm/trace/dbl/xmlcsv.tar` コマンドを使用して、ファイルをダウンロードする。
3. RTMT ([Trace and Log Central] > [Collect Files] > [Cisco Database Cli Output] > [Install and upgrade log]) を使用する。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

show tech gateway

このコマンドは、データベース内のゲートウェイ テーブルを表示します。

コマンド構文

```
show tech gateway
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

show tech locales

このコマンドは、デバイス、デバイス プール、およびエンド ユーザのロケール情報を表示します。

コマンド構文

```
show tech locales
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

show tech network

このコマンドは、サーバのネットワーク関連情報を表示します。

コマンド構文

show tech network

```
all [page] [search text] [file filename]
hosts [page] [search text] [file filename]
interfaces [page] [search text] [file filename]
resolv [page] [search text] [file filename]
routes [page] [search text] [file filename]
sockets {numeric}
```

パラメータ

- **all** は、ネットワークの技術的情報を表示します。
- **hosts** は、ホストの設定に関する情報を表示します。
- **interfaces** は、ネットワーク インターフェイスに関する情報を表示します。
- **resolv** は、ホスト名の解決に関する情報を表示します。
- **routes** は、ネットワーク ルートに関する情報を表示します。
- **sockets** は、開いているソケットのリストを表示します。

オプション

- **page** : 一度に 1 ページずつ表示します。
- **search text** : 出力から、*text* によって指定された文字列を検索します。検索では、大文字と小文字が区別されないことに注意してください。
- **file filename** : 情報をファイルに出力します。
- **numeric** : シンボリック ホストを決定せずに、ポートの数値アドレスを表示します。このパラメータを指定することは、Linux のシェル コマンド `netstat [-n]` を実行することと同じです。

使用上のガイドライン

file オプションを指定すると、情報が `platform/cli/filename.txt` に保存されます。ファイル名に「.」文字が含まれていないことを確認してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

show tech notify

このコマンドは、データベース変更通知モニタを表示します。

コマンド構文

show tech notify

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech params all

このコマンドは、すべてのデータベース パラメータを表示します。

コマンド構文**show tech params all****要件**

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech params enterprise

このコマンドは、データベースのエンタープライズ パラメータを表示します。

コマンド構文**show tech params enterprise****要件**

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech params service

このコマンドは、データベースのサービス パラメータを表示します。

コマンド構文**show tech params service****要件**

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech prefs

このコマンドは、データベースの設定を表示します。

コマンド構文**show tech prefs**

show tech procedures

このコマンドは、データベースに対して使用されているプロシージャを表示します。

コマンド構文

show tech procedures

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech repltimeout

複製のタイムアウトを表示します。

コマンド構文

show tech repltimeout

パラメータ

なし

使用上のガイドライン

この値を大きくすると、大きなシステムにおける最大限の数のサーバでも、1 回目の複製設定で含めることができます。サーバおよびデバイスの数が上限に達している場合は、複製のタイムアウトを最大値に設定してください。これによって最初の複製設定に時間がかかることに注意してください（すべてのサーバの設定を準備する時間が必要なため）。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech routepatterns

このコマンドは、システムで設定されるルート パターンを表示します。

コマンド構文

show tech routepatterns

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech routeplan

このコマンドは、システムで設定されるルート プランを表示します。

コマンド構文

show tech routeplan

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

show tech runtime

このコマンドは、サーバのランタイム関連情報を表示します。

コマンド構文

show tech runtime

all [page] [file filename]

cpu [page] [file filename]

disk [page] [file filename]

env [page] [file filename]

memory [page] [file filename]

パラメータ

- **all** は、ランタイム情報を表示します。
- **cpu** は、コマンドが実行された時点での CPU 使用率情報を表示します。
- **disk** は、システムのディスクの使用状況情報を表示します。
- **env** は、環境変数を表示します。
- **memory** は、メモリの使用状況情報を表示します。

オプション

- **page** : 一度に 1 ページずつ表示します。
- **file filename** : 情報をファイルに出力します。

使用上のガイドライン

file オプションを指定すると、情報が `platform/cli/filename.txt` に保存されます。ファイル名には「.」文字を使用できないことに注意してください。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

show tech systables

このコマンドは、sysmaster データベース内のすべてのテーブルの名前を表示します。

コマンド構文

show tech systables

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech system

show tech system コマンドは、このセクションで説明されているように更新されています。このコマンドは、サーバのシステム関連情報を表示します。

コマンド構文

show tech system

all [page] [file filename]

bus [page] [file filename]

hardware [page] [file filename]

host [page] [file filename]

kernel [page] [file filename]

software [page] [file filename]

tools [page] [file filename]

パラメータ

- **all** は、すべてのシステム情報を表示します。
- **bus** は、サーバのデータバスに関する情報を表示します。
- **hardware** は、サーバのハードウェアに関する情報を表示します。
- **host** は、サーバに関する情報を表示します。
- **kernel** は、インストールされているカーネルモジュールのリストを表示します。
- **software** は、インストールされているソフトウェアのバージョンに関する情報を表示します。
- **tools** は、サーバ上のソフトウェアツールに関する情報を表示します。

オプション

- **page** : 一度に 1 ページずつ表示します。
- **file filename** : 情報をファイルに出力します。

使用上のガイドライン

file オプションを指定すると、情報が platform/cli/filename.txt に保存されます。ファイル名に「.」文字が含まれていないことを確認してください。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech table

このコマンドは、指定されたデータベース テーブルの内容を表示します。

コマンド構文**show tech table** *table_name* [**page**] [**csv**]**パラメータ***table_name* は、表示するテーブルの名前を表します。**オプション**

- **page**：出力を一度に 1 ページずつ表示します。
- **csv**：出力をカンマ区切り形式ファイルに送ります。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech triggers

このコマンドは、テーブル名と、そのテーブルに関連付けられているトリガーを表示します。

コマンド構文**show tech triggers****要件**

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show tech version

このコマンドは、インストールされているコンポーネントのバージョンを表示します。

コマンド構文**show tech version** [**page**]**オプション****Page**：出力を一度に 1 ページずつ表示します。**要件**

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

show timezone

このコマンドは、時間帯情報を表示します。

コマンド構文

show timezone

config

list [page]

パラメータ

- **config** は、現在の時間帯設定を表示します。
- **list** は、使用可能な時間帯を表示します。



(注)

使用可能な時間帯のリストには **Factory** が含まれていますが、Cisco Unified Communications Manager では **Factory** という時間帯はサポートされません。

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

show trace

このコマンドは、特定のタスクのトレース情報を表示します。

コマンド構文

show trace [task_name]

パラメータ

task_name は、トレース情報を表示するタスクの名前を表します。



(注)

パラメータを入力しないと、使用可能なタスクのリストが返されます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

例

この例では、CDP のトレース情報が表示されます。

```
show trace cdps
```

show traceconfig

コマンド特権 : 0

アップグレード時の使用 : 可能

構文 :

```
show traceconfig [servicename]
```

必須パラメータ :

[servicename] には、次のいずれかの値を指定できます。

Cisco_AMC_Service |

Cisco_DRF_Local |

Cisco_DRF_Master |

Cisco_Unified_B2B_Link_Service |

Cisco_Unified_B2BLCfgMgr_Service |

Cisco_RIS_Data_Collector |

Cisco_Trace_Collection_Service |

Cisco_Audit_Event_Service |

Cisco_CallManager_Serviceability_RTMT |

Cisco_Log_Partition_Monitoring_Tool |

all

ヘルプ :

```
show traceconfig Cisco_AMC_Service
```

ヘルプ :

選択したサービスのトレース設定が表示されます。

例 :

admin :

```
show traceconfig all
```

```
show traceconfig Cisco_AMC_Service
```

```
show traceconfig Cisco_DRF_Local
```

```
show traceconfig Cisco_DRF_Master
```

```
show traceconfig Cisco_Unified_B2B_Link_Service
```

```
show traceconfig Cisco_Unified_B2BLCfgMgr_Service
```

```
show traceconfig Cisco_RIS_Data_Collector
```

```
show traceconfig Cisco_Trace_Collection_Service
```

```
show traceconfig Cisco_Audit_Event_Service
```

```
show traceconfig Cisco_CallManager_Serviceability_RTMT
```

```
show traceconfig Cisco_Log_Partition_Monitoring_Tool
```

show ups status

このコマンドは、USB 接続されている APC Smart-UPS デバイスの現在のステータスを示し、モニタリング サービスが開始されていない場合は開始します。

このコマンドは、7835-H2 および 7825-H2 サーバに限ってすべてのステータスを示します。

コマンド構文

show ups status

show version

このコマンドでは、アクティブなパーティションまたは非アクティブなパーティション上のソフトウェアのバージョンが表示されることに注意してください。

コマンド構文

show version

active

inactive

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

show web-security

このコマンドは、現在の Web セキュリティ証明書の内容を表示します。

コマンド構文

show web-security

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

show workingdir

このコマンドは、現在の作業ディレクトリから activelog、inactivelog、install、および TFTP を取得します。

コマンド構文

show workingdir

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

Unset コマンド

このセクションでは、以下のコマンドについて説明します。

- 「[unset ipsec policy_group](#)」 (P.103)
- 「[unset ipsec policy_name](#)」 (P.103)
- 「[unset network dns options](#)」 (P.103)
- 「[unset network ipv6 static_address](#)」 (P.104)

unset ipsec policy_group

このコマンドは、指定されたグループの ipsec ポリシーをディセーブルにします。

構文

```
unset ipsec policy_name [policy_group]
```

パラメータ

- *policy_group* (必須) は、グループ名を指定します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

unset ipsec policy_name

このコマンドは、指定された名前の ipsec ポリシーをディセーブルにします。

構文

```
unset ipsec policy_name [policy_name]
```

パラメータ

- *policy_name* (必須) は、ディセーブルにするポリシーを指定します。
 - ALL
 - ポリシー名

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

unset network dns options

このコマンドは、DNS オプションの設定を解除します。

コマンド構文

```
unset network dns options [timeout] [attempts] [rotate]
```

パラメータ

- **timeout** は、システムが DNS クエリを失敗と判断するまでの待ち時間をデフォルトに設定します。
- **attempts** は、失敗するまでの DNS 試行回数をデフォルトに設定します。
- **rotate** は、ネームサーバを選択するための方法をデフォルトに設定します。これは、ネームサーバ間での負荷分散方法に影響します。

使用上のガイドライン

このコマンドの実行を続けるかどうか尋ねられます。

**注意**

続行すると、システムのネットワーク接続が一時的に失われます。

unset network ipv6 static_address

このコマンドは、固定 IPv6 アドレスの設定を解除します。

コマンド構文

```
unset network ipv6 static_address [reboot]
```

パラメータ

なし

オプション

reboot : 変更の適用後にサーバをリブートします。

例

```
admin:unset network ipv6 static_address
      W A R N I N G
The Server must be rebooted for these changes to take effect.
Please make sure that you reboot this server.
```

```
IPv6 static address was removed.
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

Utils コマンド

このセクションでは、以下のコマンドについて説明します。

- 「utils auditd」 (P.107)
- 「utils core active」 (P.107)
- 「utils core inactive list」 (P.108)
- 「utils core inactive analyze」 (P.108)
- 「utils create report」 (P.109)
- 「utils csa disable」 (P.109)
- 「utils csa enable」 (P.109)
- 「utils csa status」 (P.110)
- 「utils cuc cluster activate (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.110)
- 「utils cuc cluster deactivate (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.110)
- 「utils cuc cluster makeprimary (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.111)
- 「utils cuc cluster overwrittenb (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.111)
- 「utils cuc cluster renegotiate (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.112)
- 「utils cuc create report (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.112)
- 「utils cuc networking clear_replication (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.113)
- 「utils cuc networking dscp (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.113)
- 「utils cuc reset password (Cisco Unity Connection のみ)」 (P.114)
- 「utils dbreplication clusterreset」 (P.114)
- 「utils dbreplication dropadmindb」 (P.115)
- 「utils dbreplication forcedatasyncsub」 (P.115)
- 「utils dbreplication quickaudit」 (P.116)
- 「utils dbreplication repair」 (P.116)
- 「utils dbreplication repairreplicate」 (P.117)
- 「utils dbreplication repairtable」 (P.117)
- 「utils dbreplication reset」 (P.118)
- 「utils dbreplication runtimestate」 (P.118)
- 「utils dbreplication repairreplicate」 (P.119)
- 「utils dbreplication repairtable」 (P.119)
- 「utils dbreplication setreptimeout」 (P.120)
- 「utils dbreplication status」 (P.120)
- 「utils dbreplication stop」 (P.121)
- 「utils diagnose」 (P.121)
- 「utils disaster_recovery cancel_backup」 (P.122)
- 「utils disaster_recovery backup tape」 (P.122)
- 「utils disaster_recovery backup network」 (P.122)

- 「utils disaster_recovery cancel_backup」 (P.123)
- 「utils disaster_recovery device delete」 (P.123)
- 「utils disaster_recovery device list」 (P.124)
- 「utils disaster_recovery restore tape」 (P.124)
- 「utils disaster_recovery restore network」 (P.124)
- * 「utils disaster_recovery schedule」 (P.125)
- 「utils disaster_recovery show_backupfiles network」 (P.126)
- 「utils disaster_recovery show_backupfiles tape」 (P.127)
- 「utils disaster_recovery show_registration」 (P.127)
- 「utils disaster_recovery show_tapeid」 (P.127)
- 「utils disaster_recovery status」 (P.127)
- 「utils fior」 (P.128)
- 「utils firewall ipv4」 (P.129)
- 「utils firewall ipv6」 (P.129)
- 「utils import config」 (P.130)
- 「utils iostat」 (P.130)
- 「utils iothrottle enable」 (P.131)
- 「utils iothrottle enable」 (P.131)
- 「utils iothrottle disable」 (P.131)
- 「utils iothrottle status」 (P.131)
- 「utils netdump client」 (P.131)
- 「utils netdump server」 (P.132)
- 「utils network arp」 (P.133)
- 「utils network capture eth0」 (P.134)
- 「utils network connectivity」 (P.135)
- 「utils network host」 (P.135)
- 「utils network ipv6 traceroute」 (P.136)
- 「utils network ipv6 host」 (P.136)
- 「utils network ipv6 ping」 (P.136)
- 「utils network ping」 (P.137)
- 「utils network traceroute」 (P.137)
- 「utils ntp」 (P.137)
- 「utils ntp restart」 (P.138)
- 「utils ntp start」 (P.138)
- 「utils ntp status」 (P.139)
- 「utils remote_account」 (P.140)
- 「utils reset_application_ui_administrator_name」 (P.141)
- 「utils reset_application_ui_administrator_password」 (P.141)

- 「utils reset_ui_administrator_name (Cisco Unified Communications Manager のみ)」 (P.141)
- 「utils reset_ui_administrator_password (Cisco Unified Communications Manager のみ)」 (P.142)
- 「utils service list」 (P.142)
- 「utils service」 (P.142)
- 「utils snmp」 (P.143)
- 「utils soap realservice test」 (P.144)
- 「utils system」 (P.144)
- 「utils system boot」 (P.145)
- 「utils system upgrade」 (P.145)

utils auditd

このコマンドは、監査ロギングのステータスをイネーブルまたはディセーブルにしたり、表示したりします。イネーブルにすると、システムは Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unified Serviceability でのユーザのアクションを監視および記録します。

監査ログの取得には Real-Time Monitoring Tool を使用することをお勧めしますが、CLI を使用して取得することもできます。

コマンド構文

```
utils auditd {enable|disable|status}
```

パラメータ

enable : 監査ロギングを有効にします。

disable : 監査ロギングを無効にします。

status : 監査ロギングが有効か無効かを表示します。

utils core active

このコマンドは、既存のコア ファイルに影響を与えます。

コマンド構文

```
utils core active
```

```
list
```

```
analyze core_file_name
```

パラメータ

- **list** は、既存のコア ファイルを表示します。

- **analyze** は、指定されたコア ファイルのスタック トレースを表示します。

オプション

- *core_file_name* : スタック トレースの取得元となるコア ファイルの名前。

使用上のガイドライン

cimserver によって作成されたコア ファイルで **utils core active analyze core_file_name** コマンドを実行すると、予期しないメッセージが表示されます。これは既知の制限です。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

utils core inactive list

このコマンドは、コア ファイルのリストを表示します。

コマンド構文

utils core inactive list

パラメータ

なし

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

utils core inactive analyze

このコマンドは、指定されたコア ファイルのバックトレースを表示します。コア ファイルのリストは、**utils core inactive list** コマンドによって取得できます。

コマンド構文

utils core inactive analyze core_file_name

パラメータ

core_file_name (必須) は、スタック トレースを取得する元になるコア ファイルの名前を指定します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

utils create report

このコマンドは、サーバに関するレポートを `platform/log` ディレクトリ内に作成します。

コマンド構文

utils create report

hardware

platform

csa

パラメータ

- **hardware** は、ディスク アレイ、リモート コンソール、診断、および環境のデータを含むシステム レポートを作成します。
- **platform** は、プラットフォーム設定ファイルを収集して、TAR ファイルにまとめます。
- **csa** は、CSA 診断に必要なすべてのファイルを収集して、1 つの CSA 診断ファイルにまとめます。このファイルは、**file get** コマンドを使用して取得できます。

使用上のガイドライン

コマンドを入力すると、続行を求めるプロンプトが表示されます。

レポートを取得するには、レポートを作成した後で **file get activelog platform/log/filename** コマンドを使用します。*filename* は、コマンドが完了した後で表示されるレポートのファイル名です。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

utils csa disable

このコマンドは、Cisco Security Agent (CSA) を停止します。

コマンド構文

utils csa disable

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

utils csa enable

このコマンドは、Cisco Security Agent (CSA) をイネーブルにします。

コマンド構文

utils csa enable

使用上のガイドライン

CSA をイネーブルを確認するプロンプトが表示されます。

**注意**

CSA.ca の開始後、システムを再起動する必要があります。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

utils csa status

このコマンドは、Cisco Security Agent (CSA) の現在のステータスを表示します。

コマンド構文

utils csa status

使用上のガイドライン

CSA が実行中であるかどうかを示されます。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

utils cuc cluster activate (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、このサーバを Cisco Unity Connection クラスタ内でアクティブにします。

コマンド構文

utils cuc cluster activate

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

```
utils cuc cluster activate
```

utils cuc cluster deactivate (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、このサーバを Cisco Unity Connection クラスタ内で非アクティブにします。

コマンド構文

utils cuc cluster deactivate

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
utils cuc cluster deactivate
```

utils cuc cluster makeprimary (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドを実行すると、指定されたサーバは Cisco Unity Connection クラスタ内でプライマリサーバステータスを取得するようになります。

コマンド構文

```
utils cuc cluster makeprimary [server]
```

パラメータ

- *server* は、プライマリサーバステータスを取得するサーバの名前を指定します。サーバを指定しないと、Connection クラスタ内の他のサーバがプライマリサーバステータスを取得します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
utils cuc cluster makeprimary
```

utils cuc cluster overwrittenb (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、このサーバ上のデータを Connection クラスタ内の他のサーバにあるデータで上書きします。

コマンド構文

```
utils cuc cluster overwrittenb
```

使用上のガイドライン

このコマンドは、このコマンドを実行するサーバ上のデータベースを、Connection クラスタ内の他のサーバにあるデータベースで上書きします。データベースが上書きされると、その後、複製が再起動されます。この方法は、バックアップからあるサーバを復元し、その復元したデータを他のサーバにコピーする必要があるときに使用されます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
utils cuc cluster overwrittenb
```

utils cuc cluster renegotiate (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、Connection クラスタ内のパブリッシャ サーバを交換した後またはパブリッシャ サーバに Connection を再インストールした後、パブリッシャ サーバとの間にクラスタ関係を構築します。パブリッシャ サーバ上のすべてのデータがサブスクリバ サーバのデータで上書きされ、サーバ間のデータ複製が初期化されます。

コマンド構文

```
utils cuc cluster renegotiate
```

使用上のガイドライン

このコマンドは、Connection クラスタ内のサブスクリバ サーバで実行して、交換したパブリッシャ サーバまたは Connection を再インストールしたパブリッシャ サーバとの間に信頼関係を設定します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

```
utils cuc cluster renegotiate
```

utils cuc create report (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、テクニカル サポートのスタッフがシステムをトラブルシューティングするのに役立つデータを収集します。収集されるデータには、バージョン情報、クラスタ ステータス、サービス情報、データベース情報、トレース ファイル、ログ ファイル、ディスク情報、メモリ情報、および再起動情報が含まれます。

コマンド構文

```
utils cuc create report
```

使用上のガイドライン

コマンドが完了すると、詳細情報が .zip ファイルに保存され、その .zip ファイルの場所が表示されます。 **file get** コマンドを使用して、ファイルを圧縮解除して内容を表示できるコンピュータに移動します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

```
utils cuc create report
```

```
Getting unity connection version. Please wait...Done
Getting cluster status. Please wait...Done
Getting service information. Please wait...Done
Getting installed locales. Please wait...Done
Getting database schema version. Please wait...Done
Getting database integrity. Please wait...Done
Getting database diagnostic log. Please wait...Done
Getting database message log. Please wait...Done
Getting trace files. Please wait...Done
Getting log files. Please wait...Done
Getting platform status. Please wait...Done
Compressing 75 files. Please wait...Done
```

```
Output is in file: cuc/cli/systeminfo_080318-140843.zip
To free disk space, delete the file after copying it to another computer
```

utils cuc networking clear_replication (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、サーバ上で実行されているすべての Digital Networking 複製アクティビティを停止します。

コマンド構文

```
utils cuc networking clear_replication
```

使用上のガイドライン

このコマンドは、Connection Digital Networking Replication Agent を停止し、drop、queue、pickup replication の各フォルダを削除し、このサーバとの間で進行中のディレクトリ プッシュまたはプル のステータスをクリアしてから、Connection Digital Networking Replication Agent を再起動します。複製フォルダのサイズによって、この操作には数分かかることがあります。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

utils cuc networking dscp (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドでは、クラスタ内の Connection サーバ間で送信されるパケットの DSCP 値を 18 に設定する処理を開始または停止できます。このため、DSCP 値に基づいてパケットの優先順位を決定するルータでは、Connection データおよびボイス メッセージを優先させることができます。

コマンド構文

```
utils cuc networking dscp {on|off}
```

パラメータ

- **on** は、ネットワークで送信されるパケットの DSCP 値を 18 に設定する処理を開始します。
- **off** は、ネットワークで送信されるパケットの DSCP 値を 18 に設定する処理を停止します。これがデフォルト値です。

使用上のガイドライン

utils cuc networking dscp コマンドは単に、クラスタ内の Connection サーバ間で渡されるパケットで DSCP 値を使用できるようにするだけです。実際に DSCP 値を使用するには、ルータを設定する必要があります。

このコマンドでは、発信パケットに DSCP 値を含めるかどうかは制御できますが、DSCP 値自体は変更できません。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

```
utils cuc networking dscp on
```

utils cuc reset password (Cisco Unity Connection のみ)

このコマンドは、指定されたユーザ アカウントのパスワードをリセットします。

コマンド構文

```
utils cuc reset password
```

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

例

```
admin:utils cuc reset password jdoe
Enter password:
Re-enter password:
jdoe
07/29/2008 12:41:14.704 : Update SUCCEEDED
```

utils dbreplication clusterreset

このコマンドを使用すると、データベースの複製をデバッグできます。ただし、これは **utils dbreplication reset all** を試し、クラスタで複製を再起動できなかった場合にのみ使用してください。このコマンドでは、クラスタ全体の複製が破棄され、再構築されます。このコマンドを使用した後は、各サブスクリバ サーバを再起動する必要があります。すべてのサブスクリバ サーバが再起動されたら、パブリッシャ サーバで CLI コマンド **utils dbreplication reset all** を実行します。

コマンド構文**utils dbreplication clusterreset****使用上のガイドライン**

このコマンドを実行する前に、**utils dbreplication stop** コマンドをすべてのサブスクリバ サーバで実行し、その後、パブリッシャ サーバでも実行します。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

utils dbreplication dropadmindb

このコマンドは、クラスタ内のすべてのサーバにある Informix の syscdr データベースをドロップします。

コマンド構文**utils dbreplication dropadmindb****使用上のガイドライン**

このコマンドは、データベース複製のリセットまたはクラスタのリセットが失敗し、複製を再起動できない場合にのみ使用します。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

utils dbreplication forcedatasyncsub

このコマンドを実行すると、サブスクリバ サーバのデータがパブリッシャ サーバ上のデータから復元されます。

このコマンドは、**utils dbreplication repair** コマンドを数回実行してから **utils dbreplication status** コマンドを実行しても、非動的テーブルが同期しない場合にのみ使用します。

**(注)**

動的テーブルが同期しないだけの場合には使用しないでください。動的テーブルは、通常のシステム動作中でも同期しないことがあります。

このコマンドは、パブリッシャ サーバからのみ実行できます。**all** パラメータを使用すると、クラスタ内のすべてのサブスクリバ サーバが同期されます。1つのサブスクリバ サーバだけが同期しない場合は、**hostname** パラメータを使用します。

このコマンドを実行した後では、復元されたサブスクリバ サーバを再起動する必要があります。

このコマンドは、実行にきわめて長い時間がかかることがあり、また、システム全体の IOWAIT に影響する可能性があります。

コマンド構文

```
utils dbreplication forcedatasyncsub {all|hostname}
```

パラメータ

- **all** を指定すると、クラスタ内のすべてのサブスクリバ サーバのデータが、パブリッシャ サーバ上のデータから復元されます。
- **hostname** は、特定のサブスクリバ サーバのデータをパブリッシャ サーバ上のデータから復元するように指定します。

使用上のガイドライン

utils dbreplication forcedatasyncsub コマンドでは、パブリッシャ サーバのデータベースのバックアップが作成され、そのデータがサブスクリバ サーバ上のデータベースに復元されます。

**(注)**

このコマンドでは、サブスクリバ サーバ上にある既存のデータはすべて消去され、パブリッシャ サーバ上のデータに置き換えられます。そのため、サブスクリバ サーバのテーブルが同期しなくなった根本的な原因を調べることはできなくなります。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

utils dbreplication quickaudit

このコマンドは、動的テーブル上の選択された内容に対して、短時間のデータベース チェックを実行します。

コマンド構文

```
utils dbreplication quickaudit nodename | all
```

パラメータ

- **nodename** は、短時間の監査を実行するノードを指定します。
- **all** を指定すると、すべてのノードで監査が実行されます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils dbreplication repair

このコマンドは、データベースの複製を修復します。

コマンド構文

```
utils dbreplication repair {all|hostname}
```

パラメータ

- **all** を指定すると、すべてのサブスクライバ サーバでデータ修復が行われます。
- *hostname* は、データ修復を行う特定のサブスクライバ サーバを指定します。

使用上のガイドライン

サーバが接続されていることが **utils dbreplication status** コマンドによって示されているにも関わらず、1 つまたは複数のテーブルのデータが同期しない場合に、このコマンドはサブスクライバ サーバ上のデータがパブリッシャ サーバ上のデータと同期するように修復します。

クラスタ内のすべてのノードを修復するには、**all** パラメータを使用します。1 つのサブスクライバ サーバだけが同期していない場合は、*hostname* パラメータを指定します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

utils dbreplication repairreplicate

このコマンドは、クラスタ ノード間で一致していないデータを修復し、パブリッシャ データと一致するようにノード データを変更します。複製の設定は修復しません。

コマンド構文

```
utils dbreplication repairreplicate replicatename [nodename]|all
```

パラメータ

- *replicatename* は、修復する複製を指定します。
- *nodename* は、複製を修復するノードを指定します。
- **all** は、すべてのノードで複製を修復することを指定します。

使用上のガイドライン

nodename は、パブリッシャを指定するとは限りません。サブスクライバのノード名も指定できます。

「all」を指定すると、すべてのサブスクライバでテーブルが修復されます。

このコマンドは、パブリッシャ上で実行できます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils dbreplication repairtable

このコマンドは、クラスタ ノード間で一致していないデータを修復し、パブリッシャ データと一致するようにノードを変更します。複製の設定は修復しません。

コマンド構文

```
utils dbreplication repairtable tablename [nodename]|all
```

パラメータ

- *tablename* は、修復するテーブルを指定します。
- *nodename* は、複製を修復するノードを指定します。
- **all** は、すべてのノードで複製を修復することを指定します。

使用上のガイドライン

このコマンドは、クラスタ ノード間で一致していないデータを修復し、パブリッシャ データと一致するようにノードを変更します。複製の設定は修復しません。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils dbreplication reset

このコマンドは、データベースの複製をリセットし、再起動します。システムが適切に設定されていないときは、これを使用することにより、複製を破棄し、再構築できます。

コマンド構文

utils dbreplication reset {**all**|*hostname*}

- **all** を指定すると、クラスタ内のすべてのサブスクリバ サーバの複製が破棄され、再構築されます。
- *hostname* を指定すると、特定のサブスクリバ サーバの複製が破棄され、再構築されます。

使用上のガイドライン

これは、サーバで RTMT 状態 4 が示されたときに使用する最適なコマンドです。1 つのサーバだけが RTMT 状態 4 を示している場合は、*hostname* パラメータを指定することにより、そのサーバをリセットできます。クラスタ全体をリセットするには、**all** パラメータを使用します。



ヒント

このコマンドを実行する前に、リセットするすべてのサブスクリバ サーバで **utils dbreplication stop** コマンドを実行し、その後、パブリッシャ サーバでも実行します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

utils dbreplication runtimestate

このコマンドは、データベース複製プロセスの進捗を監視し、クラスタ内の複製状態を出力します。

コマンド構文

utils dbreplication runtimestate [*nodename*]

パラメータ

- *nodename* (オプション) は、監視するノードを指定します。

使用上のガイドライン

nodename を指定すると、選択されたノードから見た複製状態が出力されます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils dbreplication repairreplicate

このコマンドは、クラスタ ノード間で一致していないデータを修復し、パブリッシャ サーバ データと一致するようにノード データを変更します。複製の設定は修復しません。

コマンド構文

```
utils dbreplication repairreplicate replicatename [nodename]|all
```

パラメータ

- *replicatename* は、修復する複製を指定します。
- *nodename* は、複製を修復するノードを指定します。
- **all** を指定すると、すべてのノードの複製が修復されます。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils dbreplication repairtable

このコマンドは、クラスタ ノード間で一致していないデータを修復し、パブリッシャ データと一致するようにノードを変更します。

コマンド構文

```
utils dbreplication repairtable tablename [nodename]|all
```

パラメータ

- *tablename* は、修復するテーブルを指定します。
- *nodename* は、複製を修復するノードを指定します。
- **all** を指定すると、すべてのノードの複製が修復されます。

使用上のガイドライン

このコマンドは、パブリッシャ サーバ上で実行できます。

複製の設定は修復しません。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils dbreplication setreptimeout

このコマンドを使用すると、大きなクラスタでデータベース複製のタイムアウトを設定できます。

コマンド構文

```
utils dbreplication setreptimeout timeout
```

オプション

- *timeout* : 新しいデータベース複製のタイムアウト時間 (秒)。この値は、300 から 3600 までです。

使用上のガイドライン

デフォルトのデータベース複製タイムアウトは、5 分 (値は 300) です。

最初のサブスクリバ サーバがパブリッシャ サーバに複製を要求したときに、このタイマーが設定されます。タイマーの期限が切れると、最初のサブスクリバ サーバ、およびその期間内に複製を要求した他のすべてのサブスクリバ サーバが、パブリッシャ サーバとの間でバッチによるデータ複製を開始します。複数のサブスクリバ サーバがある場合は、個別のサーバ複製よりもバッチ複製が効率的です。大きなクラスタでは、このコマンドを使用してデフォルトのタイムアウト値よりも大きくすることで、バッチに含めるサブスクリバ サーバの数を増やすことができます。

**(注)**

パブリッシャ サーバをアップグレードし、アップグレード後のパーティションで再起動する場合は、最初のサブスクリバ サーバを新しいリリースに切り替える前に、このタイマー値を設定する必要があります。最初のサブスクリバ サーバが複製を要求したときに、パブリッシャ サーバはこの新しい値に基づいて複製タイマーを設定します。

**ヒント**

クラスタ全体のアップグレードが完了し、サブスクリバ サーバの複製が適切に設定されたら、この値をデフォルトの 300 (5 分) に戻すことをお勧めします。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

utils dbreplication status

このコマンドは、データベース複製のステータスを表示し、クラスタ内のサーバが接続されてデータが同期しているかどうかを示します。このコマンドは、クラスタの最初のノード (パブリッシャ サーバ) でのみ実行してください。

コマンド構文

```
utils dbreplication status
```


要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

utils dbreplication stop

このコマンドは、データベース複製の自動設定を停止します。このコマンドは、サブスクリバおよびパブリッシャ サーバで、CLI コマンド **utils dbreplication reset** または **utils dbreplication clusterreset** を実行する前に使用します。このコマンドは、パブリッシャ サーバで実行する前に複数のサブスクリバ サーバで同時に実行できます。

コマンド構文

utils dbreplication stop [*nodename* | **all**]

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

utils diagnose

このコマンドを使用すると、システムの問題を診断し、自動修復を試みることができます。

コマンド構文

utils diagnose

fix

list

module *module_name*

test

version

パラメータ

- **fix** は、すべての診断コマンドを実行し、問題の修復を試みます。
- **list** は、使用可能なすべての診断コマンドをリスト表示します。
- **module** は、単独の診断コマンドまたはコマンドのグループを実行し、問題の修復を試みます。
- **test** は、すべての診断コマンドを実行しますが、問題の修復は試みません。
- **version** は、診断フレームワークのバージョンを表示します。
- *module_name* は、診断モジュールの名前を指定します。

utils disaster_recovery cancel_backup

このコマンドは、進行中のバックアップ ジョブをキャンセルします。

コマンド構文

```
utils disaster_recovery cancel_backup confirm
```

使用上のガイドライン

コマンドの入力後、バックアップのキャンセルについて確認する必要があります。**Y** を押すとバックアップがキャンセルされ、それ以外のキーを押すとバックアップが続行します。

例

```
admin:utils disaster_recovery cancel_backup yes
Cancelling backup...
Backup cancelled successfully.
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

utils disaster_recovery backup tape

このコマンドは、バックアップ ジョブを開始し、生成された Tar ファイルをテープに格納します。

コマンド構文

```
utils disaster_recovery backup tape featurelist tapeid
```

パラメータ

- *featurelist* は、バックアップするフィーチャをカンマで区切ったリストを指定します。
- *tapeid* は、使用可能なテープ デバイスの ID を表します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

utils disaster_recovery backup network

このコマンドは、バックアップ ジョブを開始し、生成された Tar ファイルをリモート サーバに格納します。

コマンド構文

```
utils disaster_recovery backup network featurelist path servername username
```

パラメータ

- *featurelist* は、バックアップするフィーチャをカンマで区切ったリストを指定します。
- *path* は、リモート サーバ上のバックアップ ファイルの場所を表します。

- *servername* は、バックアップ ファイルを格納するサーバの IP アドレスまたはホスト名を表します。
- *username* は、リモート サーバにログインするときに必要なユーザ名を表します。

使用上のガイドライン



(注)

リモート サーバ上のアカウントのパスワードを入力するように要求するプロンプトが表示されます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

utils disaster_recovery cancel_backup

このコマンドは、進行中のバックアップ ジョブをキャンセルします。

コマンド構文

```
utils disaster_recovery cancel_backup
```

使用上のガイドライン

バックアップ ジョブをキャンセルすることを確認するプロンプトが表示されます。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

utils disaster_recovery device delete

このコマンドは、指定されたデバイスを削除します。

コマンド構文

```
utils disaster_recovery device delete [device_name]*
```

パラメータ

device_name (必須) は、削除するデバイスの名前です。

* は、スケジュールに関連付けられているデバイスを除き、既存のすべてのデバイスを削除します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

utils disaster_recovery device list

このコマンドは、すべてのバックアップ デバイスのデバイス名、デバイス タイプ、およびデバイス パスを表示します。

コマンド構文

utils disaster_recovery device list

パラメータ

なし

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

utils disaster_recovery restore tape

このコマンドは、復元ジョブを開始し、テープからバックアップ tar ファイルを取得します。

コマンド構文

utils disaster_recovery restore tape server tarfilename tapeid

パラメータ

- *server* は、復元するサーバのホスト名を指定します。
- *tarfilename* は、復元するファイルの名前を指定します。
- *tapeid* は、復元ジョブを実行する元になるテープ デバイスの名前を指定します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

utils disaster_recovery restore network

このコマンドは、復元ジョブを開始し、リモート サーバからバックアップ Tar ファイルを取得します。

コマンド構文

utils disaster_recovery restore network restore_server tarfilename path servername username

パラメータ

- *restore_server* は、復元するサーバのホスト名を指定します。
- *tarfilename* は、復元するファイルの名前を指定します。
- *path* は、リモート サーバ上のバックアップ ファイルの場所を表します。
- *servername* は、バックアップ ファイルを格納するサーバの IP アドレスまたはホスト名を表します。
- *username* は、リモート サーバにログインするときに必要なユーザ名を表します。

使用上のガイドライン



(注) リモート サーバ上のアカウントのパスワードを入力するように要求するプロンプトが表示されます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

utils disaster_recovery schedule

このコマンドは、設定されているスケジュールに影響を与えます。

コマンド構文

utils disaster_recovery schedule

list

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

add *schedulename devicename featurelist datetime frequency*

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

enable *schedulename*

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

disable *schedulename*

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

delete [*schedulename*]*]

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

パラメータ

- **list** は、設定されているスケジュールを表示します。
- **add** は、設定されているスケジュールを追加します。
- **enable** は、指定されたスケジュールをイネーブルにします。
- **disable** は、指定されたスケジュールをディセーブルにします。
- **delete** は、指定されたスケジュールを削除します。

オプション

- *schedulename* : (必須) スケジューラの名前。
- *devicename* : (必須) スケジューリングが行われているデバイスの名前。

- *featurelist* : (必須) バックアップするカンマ区切り機能リスト。
- *datetime* : (必須) スケジューラが設定された日付。yyyy/mm/dd-hh:mm という形式で 24 時間制で指定します。
- *frequency* : (必須) バックアップを作成するようにスケジューラを設定する頻度。例: 1 回、日次、週次、月次。
- * : すべて。

list の例

```
admin:utils disaster_recovery schedule list
schedule name device name Schedule Status
-----
schedule1      dev1          enabled
schedule2      dev2          disabled
```

enable の例

```
utils disaster_recovery schedule enable schedule1
Schedule enabled successfully.
```

disable の例

```
utils disaster_recovery schedule disable schedule1
Schedule disabled successfully.
```

要件

コマンド特権レベル: 1

アップグレード時の使用: 不可

utils disaster_recovery show_backupfiles network

このコマンドは、復元ジョブを開始し、リモート サーバからバックアップ Tar ファイルを取得します。

コマンド構文

```
utils disaster_recovery show_backupfiles network path servername username
```

パラメータ

- *path* は、リモート サーバ上のバックアップ ファイルの場所を表します。
- *servername* は、バックアップ ファイルを格納するサーバの IP アドレスまたはホスト名を表します。
- *username* は、リモート サーバにログインするときに必要なユーザ名を表します。

使用上のガイドライン



(注)

リモート サーバ上のアカウントのパスワードを入力するように要求するプロンプトが表示されます。

要件

コマンド特権レベル: 1

アップグレード時の使用: 不可

utils disaster_recovery show_backupfiles tape

このコマンドは、テープに格納されるバックアップ ファイルに関する情報を表示します。

コマンド構文

```
utils disaster_recovery show_backupfiles tape tapeid
```

パラメータ

- *tapeid* は、使用可能なテープ デバイスの ID を表します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

utils disaster_recovery show_registration

このコマンドは、指定されたサーバに登録されているフィーチャおよびコンポーネントを表示します。

コマンド構文

```
utils disaster_recovery show_registration hostname
```

パラメータ

- *hostname* は、登録情報を表示するサーバを指定します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

utils disaster_recovery show_tapeid

このコマンドは、テープ デバイス ID のリストを表示します。

コマンド構文

```
utils disaster_recovery show_tapeid
```

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

utils disaster_recovery status

このコマンドは、現在のバックアップまたは復元ジョブのステータスを表示します。

コマンド構文

```
utils disaster_recovery status operation
```

パラメータ

- *operation* は、進行中の操作を **backup** または **restore** で指定します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

utils fior

このコマンドを使用すると、サーバの I/O を監視できます。File I/O Reporting サービスは、プロセスごとにファイル I/O を収集するカーネル ベースのデーモンを提供します。

コマンド構文

utils fior

disable

enable

list [**start**=date-time] [**stop**=date-time]

start

status

stop

top number [**read** | **write** | **read-rate** | **write-rate**] [**start**=date-time] [**stop**=date-time]

パラメータ

- **disable** : マシンの起動時にファイル I/O レポーティング サービスが自動的に起動しないようにします。このコマンドでは、リポートするまでサービスは停止しません。ただちにサービスを停止するときは、**stop** オプションを使用します。
- **enable** : マシンの起動時にファイル I/O レポーティング サービスが自動的に起動するようにします。このコマンドでは、リポートするまでサービスは開始しません。ただちにサービスを開始するときは、**start** オプションを使用します。
- **list** : このコマンドは、ファイル I/O イベントを古いものから新しいものの順番にリスト表示します。
- **start** : 停止してあったファイル I/O レポーティング サービスを開始します。サービスは、手動で停止されるかマシンがリポートされるまで起動状態が保たれます。
- **status** : ファイル I/O レポーティング サービスのステータスを表示します。
- **stop** : ファイル I/O レポーティング サービスを停止します。サービスは、手動で開始されるかマシンがリポートされるまで停止状態が保たれます。
- **top** : 発生させているファイル I/O が多いプロセスのリストを表示します。このリストは、読み取りバイト総数、書き込みバイト総数、読み取りバイト比率、または書き込みバイト比率でソートできます。
- **start** : 開始日時を指定します。
- **stop** : 終了日時を指定します。
- *date-time* : 以下のいずれかの形式で、日時を指定します。*H:M*、*H:M:S a*、*H:M*、*a*、*H:M:S Y-m-d*、*H:M*、*Y-m-d*、*H:M:S*。

- *number* : 上位何件のプロセスをリストに表示するかを指定します。
- **[read | write | read-rate | write-rate]** : プロセスをソートするために使用する基準を指定します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

utils firewall ipv4

このコマンドは、IPv4 ファイアウォールのオプションを設定し、ステータスを表示します。

コマンド構文

utils network ipv4 firewall

debug [**off**|*time*]

disable [*time*]

enable

list

status

パラメータ

- **debug** は、デバッグのオンとオフを切り替えます。*time* パラメータを入力しない場合、デバッグは 5 分間オンになります。
- **disable** は、IPv6 ファイアウォールをオフにします。*time* パラメータを入力しない場合、ファイアウォールは 5 分間ディセーブルになります。
- **enable** は、IPv6 ファイアウォールをオンにします。
- **list** は、ファイアウォールの現在の設定を表示します。
- **status** は、ファイアウォールの現在のステータスを表示します。
- *time* は、コマンドが有効な時間を、以下の形式のいずれかによって設定します。
 - 分 : 0 ~ 1440m
 - 時間 : 0 ~ 23h
 - 時間および分 : 0 ~ 23h 0 ~ 60m

utils firewall ipv6

このコマンドは、IPv6 ネットワーク ファイアウォールのオプションを設定し、ステータスを表示します。



(注)

IPv6 は、Cisco Unified Communications Manager Business Edition および Cisco Unity Connection ではサポートされていません。

コマンド構文**utils network ipv6 firewall****debug** [*off*]*time*]**disable** [*time*]**enable****list****status****パラメータ**

- **debug** は、デバッグのオンとオフを切り替えます。*time* パラメータを入力しない場合、デバッグは 5 分間オンになります。
- **disable** は、IPv6 ファイアウォールをオフにします。*time* パラメータを入力しない場合、ファイアウォールは 5 分間ディセーブルになります。
- **enable** は、IPv6 ファイアウォールをオンにします。
- **list** は、ファイアウォールの現在の設定を表示します。
- **status** は、ファイアウォールの現在のステータスを表示します。
- *time* は、コマンドが有効な時間を、以下の形式のいずれかによって設定します。
 - 分 : 0 ~ 1440m
 - 時間 : 0 ~ 23h
 - 時間および分 : 0 ~ 23h 0 ~ 60m

utils import config

このコマンドは、仮想フロッピー ドライブ上の platformConfig.xml ファイルからデータを取得し、設定ファイルに一致するようにシステムを変更します。コマンドが完了すると、システムが再起動します。

コマンド構文**utils import config****パラメータ**

なし

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

utils iostat

このコマンドは、指定された回数と間隔で iostat 出力を表示します。

コマンド構文**utils iostat** [*interval*] [*iterations*] [*filename*]

パラメータ

- *interval* は、iostat 読み取り間隔の秒数を表します (iterations を指定する場合は必須)。
- *iterations* は、実行する iostat の繰り返し回数を表します (interval を指定する場合は必須)
- *filename* は、出力をファイルにリダイレクトします。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

utils iothrottle enable

このコマンドは、I/O スロットリングの拡張をイネーブルにします。イネーブルにすると、I/O スロットリング拡張により、アクティブなシステムにアップグレードが与える影響が低下します。

コマンド構文

utils iothrottle enable

utils iothrottle disable

このコマンドは、I/O スロットリングの拡張をディセーブルにします。このコマンドは、アップグレード時のシステムのパフォーマンスを低下させる可能性があります。

コマンド構文

utils iothrottle disable

utils iothrottle status

このコマンドは、I/O スロットリング拡張のステータスを表示します。

コマンド構文

utils iothrottle status

utils netdump client

このコマンドは、netdump クライアントを設定します。

コマンド構文

utils netdump client

start ip-address-of-netdump-server

status

stop

パラメータ

- **start** は、netdump クライアントを起動します。
- **status** は、netdump クライアントのステータスを表示します。
- **stop** は、netdump クライアントを停止します。
- *ip-address-of-netdump-server* は、クライアントが診断情報を送る先の netdump サーバの IP アドレスを指定します。

使用上のガイドライン

カーネル パニック クラッシュが発生した場合、netdump クライアントはクラッシュの診断情報を netdump サーバに送信します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

utils netdump server

このコマンドは、netdump サーバを設定します。

コマンド構文**utils netdump server**

```

add-client ip-address-of-netdump-client
delete-client ip-address-of-netdump-client
list-clients
start
status
stop

```

パラメータ

- **add-client** は、netdump クライアントを追加します。
- **delete-client** は、netdump クライアントを削除します。
- **list-clients** は、netdump サーバに登録されているクライアントのリストを表示します。
- **start** は、netdump サーバを起動します。
- **status** は、netdump サーバのステータスを表示します。
- **stop** は、netdump サーバを停止します。
- *ip-address-of-netdump-client* は、netdump クライアントの IP アドレスを指定します。

使用上のガイドライン

カーネル パニック クラッシュが発生した場合、netdump がイネーブルになっているクライアント システムは、クラッシュの診断情報を netdump サーバに送信します。

netdump 診断情報は、netdump サーバ上の *crash/* に格納されます。クライアントの IP アドレスと日付から名前が構成されるサブディレクトリに、この netdump 情報が格納されます。

各 Cisco Unified Operating System サーバは、netdump のクライアントとサーバの両方として設定することができます。

サーバがもう 1 つの Cisco Unified Operating System サーバ上にある場合は、カーネルパニックトレースのシグニチャがそのサーバに送られます。そうでない場合は、コアダンプ全体が送られます。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：不可

パラメータ

- **list** は、アドレス解決プロトコルテーブルの内容をリスト表示します。
- **set** は、アドレス解決プロトコルテーブルにエントリを設定します。
- **delete** は、アドレス解決テーブルのエントリを削除します。
- **host** は、テーブルに追加、またはテーブルから削除するホストのホスト名または IP アドレスを表示します。
- **address** は、追加するホストの MAC アドレスを表示します。MAC アドレスは、XX:XX:XX:XX:XX:XX という形式で入力します。

オプション

- **page**：出力を一度に 1 ページずつ表示します。
- **numeric**：ホストをドット区切りの IP アドレスで表示します。

要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

utils network arp

このコマンドは、アドレス解決プロトコルテーブルの内容を一覧表示します。

コマンド構文

utils network arp

list [*host hostname*][*options*]

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の使用：可能

set *host addr*

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

delete *host*

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

オプション

- *host* (任意) には、一覧表示/設定/削除するホストを指定します。
- *hostname* (任意) は、指定したホストのホスト名です。
- *options* (任意) *page*、*numeric*
 - *page* は、出力を一時停止します。
 - *numeric* は、ホストをドット区切りの IP アドレスで表示します。
- *addr* (必須) は、ホストのハードウェア アドレス (MAC) です。
形式 XX:XX:XX:XX:XX:XX
形式 XX:XX:XX:XX:XX:XX

list の使用上のガイドライン

Flags 列の C はキャッシュ、M は相手先固定、P はパブリッシュの意味です。

list の例

```
admin: utils network arp list
Address          HWtype  HWaddress          Flags Mask          Iface
sjc21-3f-hsrp.cisco.com ether    00:00:0C:07:AC:71  C              eth0
philly.cisco.com ether    00:D0:B7:85:98:8E  C              eth0
Entries: 2      Skipped: 0      Found: 2
```

set の例

```
admin: utils network arp set myhost 11:22:33:44:55:66
```

delete の例

```
admin: utils network arp delete myhost
```

utils network capture eth0

このコマンドは、指定されたイーサネット インターフェイス上の IP パケットを取得します。

コマンド構文

```
utils network capture eth0 [page] [numeric] [file fname] [count num] [size bytes] [src addr] [dest addr] [port num]
```

パラメータ

- **eth0** は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。
page オプションまたは file オプションを使用すると、コマンドは要求されたパケットをすべて取得してから完了します。
- **numeric** : ホストをドット区切りの IP アドレスで表示します。
- **file fname** : 情報をファイルに出力します。
file オプションは、情報を platform/cli/fname.cap に保存します。ファイル名には、「.」文字を含めることはできません。

- **count num** : 取得するパケットの数を設定します。
画面出力の場合、上限は 1000 です。ファイル出力の場合、上限は 10,000 です。
- **size bytes** : 取得するパケットのバイト数を設定します。
画面出力の場合、バイト数の上限は 128 です。ファイル出力の場合、バイト数の上限は任意、または ALL です。
- **src addr** : パケットの送信元アドレスをホスト名または IPV4 アドレスで指定します。
- **dest addr** : パケットの宛先アドレスをホスト名または IPV4 アドレスで指定します。
- **port num** : パケットの送信元または宛先のポート番号を指定します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils network connectivity

このコマンドは、クラスタの最初のノードに対するノード ネットワーク接続を確認します。これは、後続のノードに対してのみ有効であることに注意してください。

コマンド構文**utils network connectivity****要件**

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils network host

このコマンドは、ホスト名をアドレスに、またはアドレスをホスト名に名前解決します。

コマンド構文**utils network host** *hostname* [**server** *server-name*] [**page**] [**detail**] [**srv**]**パラメータ**

- *hostname* は、名前解決するホスト名または IP アドレスを表します。

オプション

- *server-name* : 代替のドメイン ネーム サーバを指定します。
- **page** : 一度に 1 画面ずつ表示します。
- **detail** : 詳細なリストを表示します。
- **srv** : DNS SRV レコードを表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils network ipv6 traceroute

このコマンドを使用すると、IPv6 アドレスまたはホスト名をトレースできます。

コマンド構文

```
utils network ipv6 traceroute [ipv6-address | hostname]
```

パラメータ

- *ipv6-address* は、トレースする IPv6 アドレスを指定します。
- *hostname* は、トレースするホスト名を指定します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils network ipv6 host

このコマンドは、指定されたホスト名または IPv6 アドレスに基づいて、IPv6 ホスト ルックアップ (または IPv6 アドレス ルックアップ) を実行します。



(注) IPv6 は、Cisco Unified Communications Manager Business Edition および Cisco Unity Connection ではサポートされていません。

コマンド構文

```
utils network ipv6 host {host_name|ipv6_address}
```

パラメータ

- *host_name* は、サーバの名前を指定します。
- *ipv6_address* は、サーバの IPv6 アドレスを指定します。

utils network ipv6 ping

このコマンドを使用すると、IPv6 アドレスまたはホスト名に対して ping を実行できます。



(注) IPv6 は、Cisco Unified Communications Manager Business Edition および Cisco Unity Connection ではサポートされていません。

コマンド構文

```
utils network destination [count]
```

パラメータ

- *destination* は、ping の実行対象として有効な IPv6 アドレスまたはホスト名を指定します。
- *count* は、外部のサーバに対する ping の回数を指定します。デフォルトの回数は 4 です。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils network ping

このコマンドを使用すると、他のサーバに対して ping を実行できます。

コマンド構文

```
utils network ping destination [count]
```

パラメータ

- *destination* は、ping の実行対象となるサーバのホスト名または IP アドレスを表します。

オプション

- *count* : 外部のサーバに対する ping の回数を指定します。デフォルトの回数は 4 です。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils network traceroute

このコマンドは、リモートの宛先に送信された IP パケットをトレースします。

コマンド構文

```
utils network tracert destination
```

パラメータ

- *destination* は、トレースの送信先となるサーバのホスト名または IP アドレスを表します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils ntp

このコマンドは、NTP のステータスまたは設定を表示します。

コマンド構文

```
utils ntp {status | config}
```

**(注)**

互換性、正確性、およびネットワーク ジッタの潜在的な問題を避けるために、プライマリ ノードに指定する外部 NTP サーバは NTP v4 (バージョン 4) にしてください。IPv6 アドレッシングを使用する場合、外部 NTP サーバは NTP v4 でなければなりません。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils ntp restart

このコマンドは、NTP サービスを再起動します。

コマンド構文**utils ntp restart****パラメータ**

なし

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils ntp start

NTP サービスが実行されていない場合は、このコマンドによって起動されます。

**(注)**

NTP サービスは、コマンドライン インターフェイスから停止することはできません。このコマンドは、**utils ntp status** コマンドが **stopped** を返すときに使用してください。

コマンド構文**utils ntp start****パラメータ**

なし

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils ntp status

このコマンドは、NTP の現在のステータスを表示します。

コマンド構文

utils ntp status

パラメータ

なし

例

```
admin:utils ntp status
ntpd (pid 18705) is running...
```

remote	refid	st	t	when	poll	reach	delay	offset	jitter
127.127.1.0	LOCAL(0)	10	1	12	64	377	0.000	0.000	0.004
+171.68.10.80	10.81.254.131	2	u	331	1024	377	35.201	-0.498	0.673
*10.81.254.131	.GPS.	1	u	356	1024	377	64.304	-0.804	0.638

```
synchronised to NTP server (10.81.254.131) at stratum 2
time correct to within 37 ms
polling server every 1024 s
```

```
Current time in UTC is : Thu Feb 12 22:33:43 UTC 2009
Current time in America/Los_Angeles is : Thu Feb 12 14:33:43 PST 2009
```

The 'remote' column lists the remote NTP servers. The local hardware clock is configured as 127.127.1.0 and is always shown, even when not active.

The leftmost column below the 'remote' column header has the following meaning:

- " " discarded due to high stratum and/or failed sanity checks
- "+" a candidate NTP server and included in the final selection set
- "*" selected for synchronization

Any other values indicate the NTP server is not being used for synchronization. Other possible values are:

- "x" designated false ticker (is an invalid NTP server)
- "." culled from the end of the candidate list (is considered non viable)
- "-" discarded
- "#" selected for synchronization, but has high delay, offset or jitter

The 'refid' column indicates the remote's time source. "LOCAL(0)" applies to the local hardware clock. ".INIT." means initialization has not yet succeeded.

The 'st' column is the stratum of the remote NTP server. 16 is a invalid stratum value meaning "this server is not considered a time provider". This can be for various reasons, the most common reasons are "time provider not synchronized", "configured source does not exist" or "ntp server not running".

The 'when' column indicates how many seconds ago the remote was queried.

The 'poll' column indicates the polling interval in seconds. E.G., '64' means the remote is being polled every 64 seconds. The shortest interval NTP uses is every 64 seconds and the longest is 1024 seconds. The better a NTP source is rated over time, the longer the interval.

The 'reach' column indicates the trend of reachability tests in octal, where each digit, when converted to binary represents whether a particular poll was successful (binary 1) or unsuccessful (binary 0). E.G., '1' means only one poll has been done thus far and it was successful. '3' (= binary 11) means the last 2 polls were successful. '7' (= binary 111) means the last 3 polls were successful. '17' (= binary 1 111) means the last 4 polls were successful. '15' (= binary 1 101) means the last 2 polls were successful, the poll prior to that was unsuccessful, and the poll prior to that was successful.

When a poll is done for the active NTP server selected for synchronization is done, a time correction using that NTP server's time is also done.

The delay, offset and jitter are the round-trip delay, dispersion, and jitter in seconds.

"At stratum #" shown below the table shows the stratum of this host's NTP server, which will be one higher than that of the currently active NTP server being used for synchronization.

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils remote_account

このコマンドを使用すると、リモートアカウントのステータスをイネーブまたはディセーブにしたり、作成または確認したりすることができます。

コマンド構文

utils remote_account

status

enable

disable

create username life

パラメータ

- *username* は、リモートアカウントの名前を指定します。username は小文字だけを使用でき、6文字以上でなければなりません。
- *life* は、アカウントが有効な日数を指定します。指定した日数が過ぎると、アカウントは使用できなくなります。

使用上のガイドライン

リモートアカウントは、パスフレーズを生成します。シスコシステムズのサポート担当者はこれを使用することにより、アカウントの指定有効期間の間、システムにアクセスできます。同時に有効にできるリモートアカウントは1つだけです。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

例

```
utils remote_account status
```

utils reset_application_ui_administrator_name

このコマンドは、アプリケーション ユーザ インターフェイスの管理者名をリセットします。

コマンド構文

```
utils reset_application_ui_administrator_name
```

パラメータ

なし

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils reset_application_ui_administrator_password

このコマンドは、アプリケーション ユーザ インターフェイスの管理者パスワードをリセットします。

コマンド構文

```
utils reset_application_ui_administrator_password
```

パラメータ

なし

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils reset_ui_administrator_name (Cisco Unified Communications Manager のみ)



(注) Cisco Unity Connection の管理者ユーザ名を変更するには、Cisco Unity Connection Administration を使用します。

このコマンドは、インストールされている製品の管理者インターフェイスにログインするための管理者ユーザ名をリセットします。

コマンド構文

```
utils reset_ui_administrator_name
```

utils reset_ui_administrator_password (Cisco Unified Communications Manager のみ)



(注)

Cisco Unity Connection ユーザのパスワードを変更するには、**utils cuc reset password** コマンドを使用します。「[utils cuc reset password \(Cisco Unity Connection のみ\)](#)」(P.114) を参照してください。

このコマンドは、インストールされている製品の管理者インターフェイスにログインするための管理者パスワードをリセットします。

コマンド構文

```
utils reset_ui_administrator_password
```

utils service list

このコマンドは、すべてのサービスとそのステータスのリストを取得します。

コマンド構文

```
utils service list [page]
```

オプション

- **page** : 出力を一度に 1 ページずつ表示します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

utils service

このコマンドは、サービスを停止、開始、または再起動します。

コマンド構文

```
utils service
```

```
start service-name
```

```
stop service-name
```

```
restart service-name
```

```
auto-restart {enable | disable | show} service-name
```

パラメータ

- *service-name* は、開始または停止するサービスの名前を、次のいずれかで指定します。
 - System NTP
 - System SSH
 - Service Manager

- A Cisco DB
- Cisco Tomcat
- Cisco Database Layer Monitor
- Cisco Unified Serviceability
- **auto-restart** は、サービスを自動的に再起動します。
- **enable** は、auto-restart をイネーブルにします。
- **disable** は、auto-restart をディセーブルにします。
- **show** は、auto-restart のステータスを表示します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

utils snmp

このコマンドは、サーバ上の SNMP を管理します。

コマンド構文

utils snmp

```
get version community ip-address object [file]
hardware-agents [status | start | stop | restart]
test
walk version community ip-address object [file]
```

パラメータ

- **get** は、指定された SNMP オブジェクトの値を表示します。
- **hardware-agents status** は、サーバ上のハードウェア エージェントのステータスを表示します。
- **hardware-agents stop** は、ハードウェア ベンダーによって提供されているすべての SNMP エージェントを停止します。
- **hardware-agents restart** は、サーバ上のハードウェア エージェントを再起動します。
- **hardware-agents start** は、ハードウェア ベンダーによって提供されているすべての SNMP エージェントを開始します。
- **test** は、サンプルのアラームをローカルの syslog、リモートの syslog、および SNMP トラップに送ることにより、SNMP ホストをテストします。
- **walk** は、指定された SNMP オブジェクトから開始して、SNMP MIB をウォークします。
- **version** は、SNMP バージョンを指定します。指定できる値は、1 または 2c です。
- **community** は、SNMP コミュニティ スtring を指定します。
- **ip-address** は、サーバの IP アドレスを指定します。ローカル ホストを指定する場合は、127.0.0.0 を入力します。クラスタ内に存在する他のノードの IP を入力して、そのノードでコマンドを実行することができます。

- *object* は、取得する SNMP Object ID (OID; オブジェクト ID) を指定します。
- *file* は、コマンド出力を保存するファイルを指定します。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

utils soap realservice test

このコマンドは、リモート サーバ上でいくつかのテスト ケースを実行します。

コマンド構文

utils soap realservice test *remote-ip remote-https-user remote-https-password*

パラメータ

- *remote-ip* は、テスト対象となるサーバの IP アドレスを指定します。
- *remote-https-user* は、SOAP API にアクセス権のあるユーザ名を指定します。
- *remote-https-password* SOAP API にアクセス権のあるアカウントのパスワードを指定します。

要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 不可

utils system

このコマンドを使用すると、同じパーティションでのシステムの再起動、非アクティブなパーティションでのシステムの再起動、またはシステムのシャットダウンを実行できます。

コマンド構文

utils system {*restart* | *shutdown* | *switch-version*}

パラメータ

restart は、システムを再起動します。

shutdown は、システムをシャットダウンします。

switch-version は、非アクティブなパーティションにインストールされている製品リリースに切り替えます。

使用上のガイドライン

utils system shutdown コマンドは、5 分でタイムアウトします。システムが 5 分以内にシャットダウンしない場合は、強制シャットダウンを実行するオプションが提示されます。

要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

utils system boot

このコマンドは、システム ブートの出力を送る先をリダイレクトします。

コマンド構文

```
utils system boot {console | serial | status}
```

パラメータ

- **console** は、システム ブートの出力をコンソールにリダイレクトします。
- **serial** は、システム ブートの出力を COM1（シリアル ポート 1）にリダイレクトします。
- **status** は、システム ブートの出力が現在送られている先を表示します。

要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

utils system upgrade

このコマンドを使用すると、アップグレードおよび Cisco Option Package（COP）ファイルを、ローカルとリモートの両方のディレクトリからインストールできます。

コマンド構文

```
utils system upgrade {initiate | cancel | status}
```

パラメータ

- **cancel** は、アクティブなアップグレードをキャンセルします。
- **initiate** は、新しいアップグレード ウィザードを開始するか、現在のアップグレード ウィザードの制御を受け入れます。ウィザードから、アップグレード ファイルの場所を入力するように要求されます。
- **status** は、アップグレードのステータスを表示します。

関連資料

Cisco IP telephony のアプリケーションおよび製品の詳細については、以下のページで、お使いのリリースの『*Cisco Unified Communications Manager Documentation Guide*』を参照してください。

http://cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products_documentation_roadmaps_list.html

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、およびセキュリティ ガイドライン

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、マニュアルに関するフィードバックの提供、セキュリティ ガイドライン、および推奨エイリアスや一般的なシスコのマニュアルについては、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

シスコ製品のセキュリティ

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、次の URL で参照できます。

http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear_data.html

CCDE, CCENT, CCSI, Cisco Eos, Cisco HealthPresence, Cisco Ironport, the Cisco logo, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco Nurse Connect, Cisco Stackpower, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco Unified Computing System, Cisco WebEx, DCE, Flip Channels, Flip for Good, Flip Mino, Flip Video, Flip Video (Design), Flipshare (Design), Flip Ultra, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, Cisco Store, and Flip Gift Card are service marks; and Access Registrar, Aironet, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, iQuick Study, IronPort, the IronPort logo, LightStream, Linksys, MediaTone, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PCNow, PIX, PowerPanels, ProConnect, ScriptShare, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0907R)